This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO
7-1

JAPANESE-CANADIAN
COLLECTION

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

XXVI. A. 1

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

Japanese Canadian Citizens Association; MG28, I7, Vol.16, f.24.

[Japanese-Canadian Mss. Coll.] Box 7, Folder 1

(9)

Mrs. Koto Kawamoto.
491 30th. Ave. East,
Vancouver, B.C.

69 years old

1

First Prize

(應募申込用紙)
NATIONAL JCCA'S JAPANESE CANADIAN HISTORY CONTEST
415 Spadina Ave., Toronto, Ontario

氏名 Name: 川本コト 年齢 Age: 六十九才

住所 Address: 491 E30 VANCOUVER

市又は町村 City or Town: 晩香坡市 州 Province:

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

写真結婚の大流行の時分私もお多聞にもれず其の一人として
肉親とつらい別れをして神戸まで出て来て見れて其の頃丁度
流行病があって二週間ばかり収容所へとじこめられやっと開放
されたら外国行きの人数が殖えて其の頃の客船でとても乗船
出来ず臨時に貨物船キーマンを手入れしてやっと乗船する事が
来る明治四十年十一月に私達を乗せカナダビクトリヤに上陸船客は日本
二百名中せて二十七人米国行共で入港してホテルから向ひに来て
いるコトをんを居られる也人かと言れる時は地獄で仏に出合う
思ひでしる四人の婦人客で二人づつ夫と私の二人で車
平野ホテルに行き早速と四人共其れぞれ主人達に電報を打て頂き
夕コマの方へ翌日向ひに来られ何分一ルームにダブルベットが二つで私
と二人づつ寝て居るのがメコマえ行のれる後私共二人で淋しくミセス
戎崎と毎日向ひを待って居ても中々来ませんので二度目の電報
を打って頂いるのが来て下さらんので心細くてホテル中まで出て只二
他と前の方居られる男の人ばかりで他国で言葉語も知らず只ルーム
中で二人で泣きるのいくらい心細く待てどもいくら来られませんので晩方での
金村旅館えに行く私聞いて居るのでし金村えに電話で主人の方えに知
せて頂く頼み後一週間くらいして向ひに来ての話に人へんふ不
在なので始めの電報は着かず二度目の電報とホテルよりの八がキ
一度に着いて其の八がキる何んとアキレたるが書いてあっるる戎崎
さんと向ひに来て下さいミセス川で目が悪いので来られん私よと
書いて居るのでずっと戎崎さんの川で君も一者に行って見て来ませら
と言われるのでし来ると言ふのでし私もとても おかしい事と思って
翌日四人で医者に行きを二人の目を見て下さると二人共目を悪くちいと
言われて大安心でしる私だけ後に残されて其のホテルに世を私一人
たつる時のコトを思ふと生た気持ちでありません其の夜晩方に行
船えに乗り晩市で言ばかり買物をして望郷の気車でこれからあ
の頃有名だった山口村八軒の一ツ、主人の家へ行と向ひ其頃を分つる

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

なし十一月中頃のある日で大雨降りですハモンド ステーションえ着て見ると
姉婿さんが馬でワゲンを出向ひよこまして下さる其れより私共四人が
乗つてブラレ山道をゴトゴトユラレながら行きますと一哩くらひ行つた
ある日ログハウスが目の付き生れて初めて見るのので番通人の家と
洋館である故此れは、當國のコジキの住んで居る家と私は思つて
何ぞうもコジキの居ると思ひ又ブラレ山道を行き私共の住む洋館
中々見えない ハルカ向ふる洋館が一二家見えるが私共の行きみち
の山の村八軒と聞いて居るのでいよいよ人と思つて居る中ゴブラレ山な
なを平地が見え出して鳥を左よりまがり向ふを見れを初めて見る為
と又ヘテ家がぽつぽつあるのでかなダよりコジキが多く山居るのかなー
と思つて居る中成崎さんがミセス前の家が山でもんですと言はれる為の
私を只 アキレて居ると馬でだんん人行き其の後の松でもんのお宅で
と言はれ其の後の右がわに ホースが此り前の家まをハルカ小さい家の
前で成崎さんがミセスのお宅ですと言はれて五十年後の今日まで此
れるアが出来ん年一部屋ですワゲンから降りん事も出来ず雨る
ビショくまおを何人とも言ひ私のない多持ちて家の中え入り口よりテエ
がありテエブル掛もしてこれなら コジキよりをましなーと思ひ込まるケウチ
え行 見れを此の頃で見る事も出きん ジャンプ店よりもちい郵ち古ストブ
があつたので日本のカマドよりましと思ひ込まるベエドルームる行きベエドー
白物ずくめで此れを悪い気持ちをしたなに上から流くる一枚づーはがし
最後にブランケットをまくり下を見れて何人牛馬の食べる干草で
外國まで来て干草の上る寝るかと思えを何人とも言ひ私のちい頭
でしたが心を大きく持ち日本え帰りたくもりりて出来ん事と思ひ
樂を苦痛 苦樂の種と思ひ先まるれを何人とかちると思つて其の日が
送つて居る私の寒さ日さはけしくなるばかり家の移を金今 レイラ
の木を人の手で割た者で造つてあるので高低てあるので雨や アラレが
降りこんで板の間から家の中え時々降りこんで来るので寒くて

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO
7-1

フルエて居るので何んとか暖くふる様に言ひそして古オーム、ストフを買つてきらつてやらやく人心地ついたのです。冬中は外の仕事もあまり出来んので男子の才は、マキ取は自分の焚くマキ、やりやく外の仕事で出来る様にふると白人の土地を五年間のリースでブラレを借りて五年間はクリやをしてストロベリを植付けクラップを取るのです。この日本人八軒の人々がストベリ作りを始められるのです其の當て苺もそこそこ良く出来て、今時の様にバイキンや悪い虫もつかず苺はそこそこ作りよい。私達ばかり思つて居るのでは此の節は五十年一前の事を思ひと苺作りも困難になる程まして考へる者様の事を手傳て居て あまり世話をしてもらつて体身を悪くした事もあり本当に地獄のに来る思ひをする事も一度や二度ではありません。このやうな仕事、私達の國では女は男の働をすると思ひ手したが當時は一日も早くクリやをして植付人と五年立てクリやが終らん時は罰金を出して逃すのです。クリやをしてある土地を借る事も出来るが古土地は草が澤山あるので借地して居るのです。千九百九年より長男が生れて其の年3古土地を借地する様主人が言出し私も其の土地を見る行き大草があるので私は借る事を反對して居るのに主人は聞きのがすわをオつりて借地したが私の思つた通りストロベリを植付け毎日私共二人は他人を雇はず一日もかゝらず草取りしても最後は草が苺より大きくなり苺を見付ける仕事でクリやをしの出んので私は何んとなく様の様に悲しく思ひでしたが二年目の土地を草山にして大失敗して冷ゆるブラレ山を五年リースで白人土地を借地すると主人が言ひますのでし私見る行き私の女の目で見てもワラビが一面に生えて作物は出来相もないので又私は反對なのですが女の子地は反對すると言れたが私は前の様な失敗のしたくないはりてしるみの事を入れずブラレ山を借るつもりしるみが何分此

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO 7-1

土地を大人一人家族の為遠方でクリやる。毎日通ひ行くので前年の失敗
お金もなくなし又一ヶ月二十銭で人を雇ひそれも続けて行け
ず4エーカーを開クリやをして後を続けて行けず其の中3年の年の
最後よりやめ終アしそれのでクリ罰金を出して土地を返したのです
其の時私は夜中カンガエて見ると前の借地を全分失敗で何んとかせんと
思ひなしたら者の其の当時の明治時代を三ヶ年働いたら日本へ帰る
言ふて居る時ですので私を思ひ切り主人に相談したのを自分等の土地
を買ひたいと主人に話しをしたのが其の時分日本人ハモドで一人も土地
買って居ないるを分心で苺作りをする上で私を土地を買ってやって見
ひ自分の土地が年朝のおかげ クリやを
して抵付けてボツ人お金設新土地の金を拂って行きたいと私お申
出るので主人も其の気よりクリ土地を見付ける出て四エーカー前の
トロンクロードで一エーカーの四百坪基頃として高價な所でしたが
ので先を見込みをあると私を思ったので明治四十四年でしたが私が此の土地を
借金をして買ひ入れるので私を夜寝んとでも働てお返しをしなければ
ふ程と言ったので土地の借金を
て思って何でも何まで男の仕事の働きもし其時三人目の子が
ょ居ても四十四年の冬中を主人が薪切りのカンツライキをして居
ので其の薪切りの手傳もし根タオレもし四十五年の五月十日より三人目
を供が生れるまで二三日前まで働き続けて主人が薪のカンツライキ
ので終アして自分の土地のブラレ切りを初めやくクリやもして居る中
苺タイムよりを近所の白人の苺摘みをお産後一ヶ月目頃から四才と
三才の子供をつれて家をベビーをおいて十時間働くのですが其
る三ヶ月ベビーをお乳を飲しに帰り夕方三ヶ月長く働て帰るのです
が其の頃を白人婦人を一人も働きをされず日本人も私が一人でしたので
で日給も男の方と同じ二十仙アール時を主人が一時間くらい仙オバータイムも
して居るので、チャキを使ふ時を主人の方が少しくらい仙上でしたが弱んとは
じ

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO
7-1

ストロベリーの終了として、次ぎにラスベリー摘みでミセス西山さんと二人ようす
甚の頃は日本人も大分ハモドる居られましるが次ぎのプラムのパキン次ぎの
イチゴやブルーパキン行は舞三人の子供をつれて行き甚の仕事のパキンで摘む
ま主人達七時のうちで私は八時のうちで朝一時間ユックリして出るのでる供等
メスカルのです私は男の方達と同じ日給を頂きる子供の小さいのを三人かつ
て行くので一生懸命に働きましるが、ナンキン二人と毎日パキンしで何人で一日
何ほど出来るのボーレンも知って居られるのでしいら最後終了してチヤキ
を頂く時はボーレンの言われるまゝ、ユーは八時のうち働くお前は十時間の仕事をに
居るのう十時間分毎日として押つて下さる主人と同じチヤキを頂く時
本当は嬉し涙の出ました、白人の方でもよく見て居られたと思ひます
仕事をして居る時は私達の仕事ばえ見て来られて言われるベビーつ
お乳を飲ませたいと言われとても親切な大金持ちです私の家のうち半の
くらいの近所でした、主人の仕事がアル中切れ時は甚のお宅や他の白人の
宅へ洗濯に行くのですプルーンの終了しるまい人参取りやポテト掘り
タイ・ナップ取りをさせる働いて甚に又各の仕事主人の薪
切りのカンツライキもして雪の中でもる供二人をつれベビーを家にもたせ
雪の中へ火をたいてる供二人を遊ばして薪切の手傳をして居るあの
ます主人の何時もお前の土地も買うと言うのう申すのでし私は
一生懸命に働て一日も早く土地の金を返しるあいので心をはなれず幸
私は健康で恵まれて居るあのでしあれだけ世話をう働きをお出来るあと心
感謝しつゝ働き通し望年で自分達の土地でクリやも多く山出来ず
又出働きで三人の子供をつれて朝七時のうち働くのでし私の起るのは
朝四時半、サンデーで五時半ですが、夕方で六時半で働て帰るが時々七
時まで働くのでる供の可愛相で夜安さと寝て居るのを見て何時迄もま
日中で親の世中で人様の仕事のと思うて働くのでし子供を多くなるオコの
事もありますが朝早く供を早くのうち起すのうとても可愛相でしるあのベビ
が一日中うバ車まで進んでくれるのでたすかりです

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO 7-1

三人の子供をつれて働て土地の金を少しづゝ送てて居れど中々の
金で　百事一よお前お土地を買ふ〳〵と言ふからと言をばかり〳〵
れて働て居たので私も働て一生懸命にお金を溜めて居たので
日でえ行運賃くらいさあるので、三人の子供をつれて帰国を思
あの頃は日本学校え行のしたい気持ちと皆私も同じでした私の
色々と子供のことを感がイ親の仕事〳〵で子供をホヲトン事を
す愛想で此のまゝでは一人前の人間になれん私を思えて夜
安にて居ましたが思ひ切て日本え行く気になり主人に相談し
大正三年九月三人の子供をつれて帰国する事になり土地や家も
ので、宮本さんに一ヶ年間預ける事にして主人は出稼を行き
預ける事にしてきけて私も心配なくて子供等と暮す事が出
来ると思ったが幸の不幸か横濱え着く二三日前から体無
所、ヨイとと思えん気合の悪くなって、心配して居たが、ツリの如
る感じ甚ま親達の考え帰りで大へん皆私のあん
なり私も嬉しく思ひましたが親達に相談して子供等と日で
暮したいと申しあるのですが、カナダで私の苦しい働もし大事
親達に話しましたん私するは、但父母が居つれるのでどんなるか歎
れるかと思毎で其れで私の再病航もしかいと言ひますして主人のも親
言されるとあんだがカナダえ行ちんと主人事あのようがヤケをこすれ
どもど行ってくれと涙ながらに言され、私の親達お腹に子供
居る事故再病航をしたオがよいと思ふと言れるけれどあの苦
みをしてまでカナダで暮したくないと思ふけれど其の苦しみと
親達と言れんので国のものです親達を私の三人の子供を大事まと
育てるから安心して再病航也よと言されるので苦しみて、子供等
別れる事ので何と思ってもツライので如何した物かと思ったが主人
の親達のあまりにも心配されるので再病航する事なりドクターに相談
ろ六月七月中に行のゆんと八月にもなれ体身のためよ悪とのこと

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO 7-1

子供等と別れて行くのが何んと思っても酷いのですが仕方
なく大正三年三月より再度航しそのみが我家を宮で今大工を
頼けて居るので私等のルームとして二階一ルーム私等の用ふ部屋
してあるので一寸の間甚のルームを居て主人の晩市キャビラーで
レンジルはりもして居るのでお腹をして甚のキャンプを
五月始めまで居て五月の近付くので引上げてハモンドより帰る都
で福井宿之行き明日ハモンド帰ると言ふて居る中翌朝急
五月八日より生れて福井さんオで市花今より二週間ふつてハモンドより
帰りなる六月の後定で舟や気や車でゆられるためる一ヶ月早く生れ
苺摘みもぼつ〳〵始まり私も日が立たないが主人の姉の所で苺
摘みして毎朝五時ごろ仕事をしたので体身が小し悪くなつるので
たした事ならず苺摘みも終りで、ベビーをつれてコリイトラムの
え主人がレンジルはりに行くので私の行を初めの間ベビーを知人より
けて私がレンジルはりに行き始めてレンジル横切をしたのです
主人と主ぱイラや根多オレを強んど横切て私でしたのです時々主
横切もしたしるる甚の年でとそでも不京気で切貸も安いので
二人で一人前ぐらいの賃金しかかれんけれど土地のお金を返したい
ばのでよ一生懸命でした甚れのら山がだん〳〵達オ走りて供
預つてくるる才と別れお所より行をベビーて仕事ばにつれて行き
箱に入れて遊してレンジルはり続け夏で苺摘に行き甚の年の最
摘賃で一時間十仙でした サンデーて自分等の積く新切て全分私が
切りハコビ甚の苦しみて一通りでなかもん森川安太郎様
近所よりお住いで私等ともよく市存じで何時もあんるる達の働
事を今時の人々に話しても本当にしまへんよと オレヤルのでした
甚の森川氏一家は今マトロンドにお住いです 武崎徳蔵様も今
ハミルトンに市住ですが私等事て五十年前から移動まで市存じ
です 一ヶ月前頃で出働きでも苦しい働きをしたが甚の望年宮で初

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

より返して貰をタイムが出来ると二人でクリやをして居ると白人の
の子が通りかゝり、主人に言葉をかゝるお前達は其人に働をワイフに働
すとワイフが死んでしまうと言われますが其の當時は世の働く人達
有りませんでした、私だけは、働くと土地の金で拂えんので働き
しましたが幸に健康にて感謝して毎日續け働く事が出来た
の金も年々拂って五人目の子供が生れる頃になると色々安くなりまし
も働き續けて居る大正六年と思ひますが私の土地のハモンドの中
間で其の頃は日本人農家も多く山、ありに供もスクール行く程、
ぶり日本語學校を私の土地に立てられる程、よたり、半エーカー別け
ですと其れから六人目の子供が生れて其の年に主人はハモンド、メール
働き、私の土地の前が白人が十エーカー持って居られて其の土地も
大池、木ノ下根芽と私オ二エーカー借地を三家でする事になり
自分の土地も其年に一エーカ植付けて金で私芽の三エーカーと
ぶり、其の手入れ草ぶしを私一人でやり主人は毎日ミール働く行き
其の頃はミールも十時間もで二哩もある道を歩て行くので毎朝私
お出時半の十時前に起き主人は六時に家を出て行き主人を送
出して、子供の起るまで私は其の手入れして行きて子供の起る頃に
りに供等に朝食を食べさせて又苺の草取り全部私一人でする入
をして苺摘みの時は人を頼み主人もミールを止して苺摘みをしてい
の年にそれも豊作で歐洲戰爭で苺の直が良ので此れ手で
夜も長く寝と働た甲斐げでカ月なので来て始めてお金を何千
弗と銀行に預ける事が出来土地を拂ひ終り本当に嬉しく
思って居ましたが其の年に又も景気が出て土地の直が上
私芽の土地も四百弗で買た物が千弗エーカーにふえ主人は大
喜んで賣に出したので私は本当にガッカリして賣る事に反対
し私は無の汗で働いて始めてお金を預ける程になり此の土地と別
れる事に成る以上酷い涙ながら反対しあうので主人も始め

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

の夕方、夕闇の中に、白いテントのキャンプが見えた。人なつかしさに、思はず急ぎ足に近寄ってみると、測量隊のキャンプであり、支那人のつぶやいた。彼も、同じ東洋人だというので、とても喜び、是非泊ってゆけとすゝめてくれ、山の中のこと、お得意の支那料理でなかったが、あれやこれやと作ってくれた。

翌日、元気いっぱい、ようやく汽車道に出たが、汽車が来るまで、まだ三日も、四日もあるというので、仕方なく、汽車道を又歩き始めた。

日が暮れたので、道のサイドに積んであるタイの上に、一枚のもの布を、グルグル体に巻いて、ねむろうとしたが、背中が痛いのと、寒いので、中々ねむれない。冷い星の光りを、じっと見ていると、アルバタに矢行した塩川さんや、愛犬プリンスの顔が見える——それが又、故郷、鹿児島の父母の顔、祖母の顔、友達の顔と、果しなく思いは廣がって行く。すぐ側に、黒々と、廣く、冷くよこたわっている線路にも、多くの想出が連

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

る。上陸当初、バンクーバー、CPRの線路の
巾が廣いと友達と話し合ったこと、すぐに、
鉄道路付けエ事に行ったこと等が、次から
次へと、故郷のお祭の夜、お宮の境内で、
クル〈廻っていた走馬燈のように、想出は回
って、何時の間にか、ねむってしまったのだ
ろう。翌朝、ヒヤッと、身にこたえた朝霜で目
がさめ、又一人でどこまでも続く線路の道を
歩き始めた。其日の夜おそく、六日ぶりで、
ていけは生えしたい、衣類も、おは〈になって、
人の世の中に帰って来た。

其後、詠りさんと、愛犬プリンスは、サスカ
チワンを見て廻り、又アルバタに引返し、市内
かり、エドモントンの〈仲間〉レッドデアーより、西
に六十二哩、ロッキーマウンテンハラス市か
ら、十五哩の所に、ちょっとした所を見つけた
ので、私も後を追った。同地に十年いた後、
一度故国訪問、妻をめとり、父母にも貸家、
五六軒建て、よろこんでもらった。時は絶
え間なく、私の人生と共に、潮の様に流れ、今

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

その父母はなく、建てた貸家も、アメリカ軍の爆撃のために、灰となってしまった。

約二十年近く、心の友として、上陸第一歩より喜びと悲しみを分け合い、馬のたずなを二人でとり合った効さんは、一九一七年頃、しばらく米国に行ったまい先方が気に入り、こちらの農園の方は、実弟市来さんにゆずり後に、加州方面より、メキシコ国境附近の、大農園の養子となって、メキシコ娘と結婚し、二人の父となられたが、大戦後は消息もなく

なった。

今は、わが家で、妻と共に、子や孫の顔をみて、共に食事するのが、何よりのたのしみの、我達一世の半生は、文字どおり、道なき道をゆくもの、生涯であった。

或時は、絶食一歩手前の貧困、砂浜に書かれた字の様に、迫害の大波に、一撃に押し流され、消されてしまった計画の数々、その失望を、まぼろしとする酒や賭博之の誘惑——それらに負けて死んで行ったんも少くはない。

又生きていても、世の中の片隅に、こっそりと、

老いの日を淋しく、人で生きている人も多い。
然し乍ら、私は、私の信念と、日本民族としの誇りを道つれに、ねばり強く、こつこつと
私自身の道を切り開いて来た。如何に、つまづき
倒れても、再びりりなにさりと奮い起つ力が湧
き上って来た。苦しみ、困難を突
破すれば、すると程、その力は益々大きくなって
いった。そして、私達の苦難の生涯は、或時は
アレーサーの河のそばで、或時は サスカチワン河
と共に流れ去り、今は、オンタリオ湖
のほとりにたどりついて、過去半世紀の世界の
動きと、私の人生を、静かにふり返っている。
驀進する急行列車のごとく、発展している。
二世の子供達や、後に続く孫達よ、私達が杭
となって築いた力ナダに於ける日系人発展の
鉄路の上を、どこまでも、廣く、力強く、堂々
と、しかも、その基盤となる一世の努力と、
その歴史につながる、日本文化への理解と愛
情を、決して忘れる事なくとこしえに、心
の底から祈りつつ。

終り。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

Mr. M. Yoshida, Capo St. Martin P.R.

mailing address

R. R. St. Hyacinthe de Laval, P.Q.

(5)

Second Prize

Make 3 copies

Mango Yoshida
age 85 years

St. Hyacinthe de Laval
P.Q.

NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

[illegible]

This is most
[illegible] families
[illegible] in Japan
[illegible]
[illegible].

[illegible]

NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

在米在加合セテ七十年昔ノ面影ヲ八起キノ奮闘

私シハ year 1891. 十八歳ノ時ニ渡米桑港在留三年間、英語ヲ学ブ傍ラ発明家久原米出身ノ某氏ノ行立助力ヲ助ケテ電話自働式ノ専売権十六年有効ノモノヲ獲得シタ。此ノ事ハ先年 New Canadian 紙ヒロシマ新聞ニ発表シタカラ省略シマス

移民五十人ノ渡加

其ノカラ私シハ一時帰国シテ久原米附近ノ金ニテ青年五十名ノ移民下附ヲ志願シ旅費四七金ヲ立テ替ヘテ 1893 年十月ニ Victoria 市ニ上陸シタガ仕事ガナカラ若イモノ十五人ハ Shad Bay トシテ家族ノ仕事ニ従事セシメ居ル内ニ晩市附近ノ製材所ニ行ク道ガ出来タカラ California ニ上リ水力ノ使ヒ方ヲ教ヘ合ヒ傍ラ入レ水ニテ木ヲ作ルコトヲ学ブガ主ニ大成効デ電ト木ガ出来マシタ其ノ仲間ノ各性ニ同様ニ水田ヲ経営シテ居リ遂ニ加州米ガ沢山産出シテ有名ニナリマシタ。同時ニ私ハ一緒ニ山ノ大工ニ入リ使用シテ Tacoma 市ニ竹細工ヲ出シ傍ラ洋裁学校ニ通イ卒業後ハ大工ニ譲渡シテ 1894 年ニ東部 Boston ニ行キ途中 Montreal 市ニ一ヶ月滞在シマシタ。日本人ガ二名イタ。McGill 大学生ト此ノ一人ハ日本材料商店ヲ一人デ小川英子、力士デ殺ブ4屋ヲ経営シテイタ。夫ノ一人ハ人デ良家婦人デシタ其ノ内ニ後ノ前記ノ妻 Victor Kato ト結婚シテ北海道ニ大農場ヲ経営シテ居ラレマシタ

前記ノ如ク、五十人ノ組合ヲ米加各地ニ分散ヲ

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

様ナル日本ノ状態ヲ示スト共ニ極メテ即チ相接
セ桑港、極ウザ、刺シオー、其他極ムルヲ云フ意味デ極木類
花生其他ノ快餐品ヲ売ルナトノデスカラ此ノ連中ガ後来
大ニ発展シテ成功者ガ輩出シテ即チ遠藤者堀越氏ノ
後来紐育ト、ロンドン、デ Silk ノ商売ニ従事セシ堀越商会
ノ創立者デス、日本村ノ舞台ハ村氏ノ Atlantic city ノ話ヲ
少シ大ニ成功シテ紐育デ此村紅ヲ熱愛シタ
代ノ一人ノ示唆デ全然シテ全楽家トナリタ代ニ小我会
ガ輩出シタノデス即チ此ノ人ニ名称ヲ出ハ
紅所熱ノ ~~[illegible]~~ 傾ガウ 向敬後発ヲ示シ遂ニ成功ガ出来タ
私ハ其ノ頃ノ Boston ニ於ケル社会ヲ自由建築場ヲ開ク
日本ノ博覧会デ私ニ同意ガ一番ニ招ケ、ナカ無
料ノ陳列ヲ始メカラ版画ニ於ケル著者ハ此意デ従ヲ上メ紐育
ニ出テ色々ナ地ニ働カ下ノ者ニ於テ Atlantic city デ競売
ヲ行ヒ会社ニ同年ニ十軒ノ競売ヲ盛ンニ日本名ヲ
売ヲ行ヒ、Bronze, Chaisine Jiway carns, Hand carved furniture
一般上ノ十軒ノ4軒ノ店ガ名ヲ売レタ、元来日本人ノ競売ハ
海外ニ於テ分出ノ高価ナ豊富ナ Catalogue ヲ作ル競売スル
方法ハ、5番 Ave. ノ方法ヲ取リシニノデ小売ノ十人当ニ
即チ最小分者ノ商法デス
ソレガ1905年ニ紐育デ不況起リ即チ五十七軒ノ店ガ
ガ取リ付キニ遭ツテ休店スルヲ見タギヲ競売ハ商者ニ
取人ニナツタカラ直ニ Boston ニ於ケル競売ヲ続ケタガ
ソコモ、危険ヲ感ジタ、其ノ頃ニ来テ教ヘテイタ Mr. Massey
ノ手紙ガ1907年ニ Toronto ニ於ケル同年ニ Hamilton ヲ
競売ヲ始メタガ此ノ時ガ運ノ大吉ヲ紐育ノ株人ガ大ニ安
全ニ帰ル事ガ出来タ Mr. Massey 氏ハ Japanese General Massey
ノ父上デ日本人ニ親シカル人デ日本人ノ旅行者ガ来タラ
同氏ノ家ニ泊レバ客トシテ歓待サレタ其ノ頃ハ Massey Hall

NATIONAL J.C.C.A. HISTORY CONTEST

商社が不況ノ風ッタ時分ニ日本政府カラ北海道デ
何か一ツ最良ノ大器ノ注文ノ為ニ西ノ大ニ財力ッタ苦ノ
状況ニ陥リエルトノ事デシタ
其カラ私ニ Yonge st ノ二十八番ノ十年間 Lease ニテ家ニ
計ニ変リヲ始メル為メニ 1911年ニ日本ニ仕入レ好ク相考
受イ入レタ時分ニ Toronto ノ電部ガ非ト言ッテ一方其年分
ニ計ッカラ Lease ノ譲ル数約ノコトノ知ラセデシタ私ニハ大ニ
幸ニテ私ハ Toronto ニ帰リ当社設立ノ出ルテ十ノ 1919年
ニ自家デ Montreal ニ上ッテ下ッテ Quebec City ノ都合ニ新ノ
小売店ノ出ン Tokio Store ト名ノ付ケタ其ノ後間モナク第一次
大戦ト十ノ日本全ガ船ノ様ニ売レタ銀行ノ預ケ金ガ約数
ニナッタカラ家屋ヤ有利ノ株ニ投資シ第第後イライタガ
1929年ノ大不況ト十ノ商売ノ悪クナル一方家賃ノ安イ又株ノ
十分ノ一ニ下リ二ケ年後ニハ財産ノ殆無ト十ノ家賃ヤ株ノ二来
ル文ハ総ノ通ニ財産中結ト十ノコト成リタ
其ノ Ontario ノ家電ヲ扱ッテ居ル会社ノ名前ニ十ノテイタカラデス
1929年ニ十ノテ其ノ電動ガ悪クナッタ Japan Inc. ノ
例ニ従ッテ何ヲ三種物産ノ Canada agent ト十ノ電ノ
其系電機ノ Sole Agent ト十ノ商売ガ取ル十ノタ為ニ其系
電球ノ電ノ代ガ盛ニ十ノ大ニ結カル様ニ十ノタガ C.G.E. ノ
電球ノ電ノ代ガ悪クナッテイタカラ其系球ノ商売ノ為ニ
スルカラ私ハ其系ト相談シテ C.G.E. ノ提携スル
私ニ為ニ日本ノ或ル会社ノ後援デアッタ

元来 C.G.E. ノ米国ノ General Electric 会社デ G.E. 所有ノ
Edison patent ノ権利ヲ与ヘル所ノ製造家ガ年ニ多額
ノ利益ヲ得タイタ日本ノ東京電機ニ同様ノ年ニ同様ノ
ヒ、ッ上ゲタイタノデス
其レガ世ノ第一流ノ弁護士 Smart + Biggar ノ介ニ

C.G.E.の對技系電球のpatent爭ひ

技師ウェッブ氏の論説発表の時代の発明である同じのpatentを持て居る人々と製造業林原友彦氏の証人としてカナダから出張の際の命令でExchequer Courtに出廷したが到底勝つ技師の敗訴となる所なりBrant & Beggs氏意見でも此の到底正当でないからOttawaのSupreme Courtに上訴したが結局勝つ見込みがないとの上訴スルコトの命令の結果の失望と技師の勝利となりG.E.のpelshinpatentの為め抑えられた其の理由の元来Frosting systemなるものはG.E.のpelshin patentの為め前に示す通りFrosted glassが出ないからG.E.のpatentの無効なれば重要問題の結論のみから無効、技師のpatentの有効との到底大なる其にてC.G.E.英国のPrivy Councilに上訴したが部下なり、英国技師の高意の如き方面以上に公正なり。

同様到底三年かかって其の翌年十一月24日の皆々でG.E.が仕掛けたとなりたる二年後に

第二次大戦が勃発したが日本からの輸入の全部杜絶し竹の材料を其の効力の大なる望みてこれ迄技師がC.G.E.に対し損害賠償として百十万円の起訴した所これが裁判が故意と迂闊の数回繰り返して来て解決せずして今迄の日本の銀行の後援がないから諦めて出来ません

私は1946年高意の上にて再び効力三年間の件にFarmの見入れ陪審にて此件が同様方法後再び高意にFarmの他陪審が意に上り出した私の如く大会社の損害の為の人年不足の理由が出来ないとの理由と此の如く25ヒーターの件なるも無効の如ヒーターの元俗の世俗が強いので出の時間ケ月

て長岡苦勞をさしたと言ひ甚れでて貰らん事まする。すると言つて私て大人嬉しく思つて居たのも、東の間甚の望月朝白人が土地見る事て千坪エーカー三千五百坪の現金で買ふとの事でそて私る相談ふしで貰る事まして後私る言たのて私てなんい返事の仕用もなく受けて仕才がない長い間苦しい働きを續けて漸やく自分の物まふ位お金も少く出来て来るのでて借せるもの此方での物る可愛相ふ思ひもさせず暮せると思つるのも夢の様な気持ちでした又土地を他る買ふとてならず貧乏人のる山で日々るも三人暮る甚れえも送金が安くるなつた、と思つたので家や土地が貰れ毎のて自分等の住み家を買ひけれてならず主人る私る申しました、一エーカー百坪で甚の當時ブラレ山で買えるので甚人所を買つて、多く山が出来た時る二人クリやとすれつ少々お金も預けてあるから前の様る苦しい働かんでも暮と行けるでしようと相談して あちこちと見てる中る思ふ様ふ土地が見付からず甚中る森川様が甚の當時二ヶ所土地を持て居られ、一ヶ所何れでも貰るので買てないかと言われたが何分まも、エーカーが七千坪と言ふ高價でクラップも多く山出る見積りでてあるますが私る以前の借地の失敗を思ひ見積通りるクラップが取れたから土地の代金を一ヶ年で拂ひ出来るが中く思ひ通りる行のんと思ひ私るとそて及對した若し買ふのでした。私る日々のる供等の考え帰りますと皆ふ私の反對る困つる上で知二、三人る私才え来て頂いて相談相手まして私る世見る感謝さして仕才ない貧ふ事て私の気の弱さでした甚れで甚の土地大家移りして行を明年も苦ふ高價である事て前年あらじゃの値段も定りて居たが何だか私て気のりがせんが苦取やホーニンで毎日忙がしく働て居るけれで何分廣いので私等二人でて間

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

(5)

[illegible] Petit Lac [illegible]

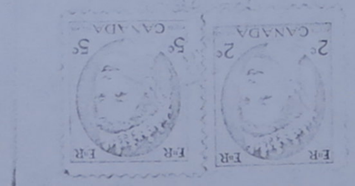
[illegible]

[illegible] Age 85 years

St. Elzear, Laval, P.Q.

National J.C.C.A.
History Contest,
"LIS Bipedimo Case"
Toronto 4, Ont.

Yoshida, Capt. St. Martin, P.Q.
Mailing Address:
St. Elzear de Laval, P.Q.



NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO 7-1

今ず時々人を頼み畑の手入れをして居る中、青年入りストロの花盛よ大霜が来て、クラップ三分の一取れたので私達がウカリしました。其の翌年一から苺の直段下り始めて来たが前年の好景気で多くの苺農者が出来て来たが其の後直段上らず以前の様な儲を困り乍ら来て白人スタイル二ヶ年一行せました。其の間よ家の手伝をしてくれるので大分楽くなりましたが苺の直段下り、ジャムとして安いので多数の生活大変です。其の中長女と次女の日本から来て大安心して居る中、長男が生れ、九人共元気で私も楽んで居る中大不幸が出来ました。十七才の次男が男を悪くして亡くなり、其の親子で多く山ちゃん子供のことを思ひ心をしづめて又毎日働き続けて居り、次男のお墓も立てたいと私達其頃から永住の気持ちになり半年二カのお墓場を買って、私達此のメープルリージンのお墓を行き都森で居るのです。其の後メープルリージンのお寺が立ち私達も永住の気分になりました。そして日々を楽しく暮して居り、九人の子供も一人七々忌後八人で幸る全分ビーンレーる住んで居るのですが私達も心つよく思って居るのですが子供の少さい間で私も気を付てゐる人中一人も、ハイエンよりも今迄ずゝ育てたが残念ながら只一人男を亡くして忘れる事が出来ずゆん男の病気で入院も始め一週間、最後の入院十日間ですが他の子供、私達二人も病気で入院したので一度もないので感謝して居ります。私も今頃の様な日本る居る様ち感じて暮せる様ちられて有難く思って居る中千九四十一年十二月八日の夜メープルリージンの仏寺で演芸会のミイチンジして居る最中戦争が始まって居るとそこに其れから望四十二の1日本で移動となり、私達もハモンドに三十五年間住み第二の

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO 7-1

故郷を立退せる事を只夢心地の様に感じて居たけれども
最後の移動者として千九百四十二年八月廿一日の朝涙ながら
に三十五年間と言ふ長い間住なれた、ハモンドとお別れして其
夜十二時に自由移動でレルニツトえ着き移動先着の才
に大人に親切にして頂き感謝して居ました。何分サバクの
不便此の上なき所でランプ生活三十五年前を思ひ出して
居るのです。四十三年に皆様と共同でお百姓をして一ヶ年と
七ヶ月して後の学校の都合で四十四年四月にバアノンえ再移動
でアップルランチに行き終戦後バアノンえ家を買ひ農業の
仕事を私等二人でして居り其の中子供等も出晩市えに行
老人二人になる心細さを千九百五十三年にラングレーの長田
のおえバアノンの家を買つて移りて其の年傳を始め千九百五十
六年まで五十年間百姓母農者で続けて居るが其
後少しで快才に向たので退院しその何分五十数年と言ふ長
間病気をしない事が出来ないので全快する事と一家の者も思た
中々ハカバカしく行かず田舎に居て不便で困るので来の
男のおが晩市えに文化住宅を買つて、私等二人が住む事になり
何不自由なく電気仕掛の家えかなる来て始めて住める様
になつたので私で五十年前の夢が実現したと思ひ毎日を
有難く感謝のみです。お主人で其の文化住宅えに住むこと個六ヶ月
中病院えに三回も入院し本当に命の毒です。千九百五十七年十月
十二日に七人になり其の後で私一人でこの家に主人で居るので本当
モッテイナイと思ひ五十年間の苦の種が今で楽の種が芽を結んだ
のです。五十年間の私の生活して来た事を簡単に書き覚え
ます

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO 7-1

12

悪しい事を書けるそれの長さ有るので此のくらいにして
置きます右の様な明治時代の事を人工衛星のとぶ進
歩の素晴らしい世の二世三世の方々に本当をそれん
事でしりぞけが嘘の様な話の事です

晩香坡市四丁目一東三十

川本つよ

AGRICULTURAL STATISTICS OF FRASER V

フレザーバレイ日本人農事現況調

DISTRICT	Member	Population	Acres Owned	Acres Cleared	Acres Leased	Small Frui
MISSION	80	465	1,592	1046½	131	56
WHONNOCK	44	281	768½	362	25	15
Heney	100	531	1,464	771½	51½	33
HAMMOND	43	259	736	305	17	14
PIT MEADOWS	28	167	385	353	56	24
STEVESTON	58	258	231½	419½	187	13
SURREY	33	165	543	271½	—	15
STRAWBERRY HILL	33	198	254½	133	9	7
SUNBURY	12	71	48½	47½	—	1
SOUTH PORT MANN	17	62	240	53	—	3
Abbotsford	5	37	189	61½	—	1
BRADNER	23	98	766	240½	20	16
CLAYBURN	15	80	272½	111	5	7
South Fraser Farmer Union	70	396	1.315	537	13	32
TOTAL	561	3.068	8.806½	4.712½	514½	242

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FRIALLEY B.C APIIL 1940.

査調査表 農与協会調

SMALL FRUIT	RHUBARB	ASPARAGS	VEGETABLES	HOPS	Chickens	GreenHouses
560½	120½	19	15½	28	3.745	
159½	19½	17	26½	10	4.650	2
334	22½	16	15½	9	18.800	47
146½	6	43½	55	11	3.280	4
248	10	12	36	10	1.300	
136½	—	—	271	—	—	
153½	23	3½	2	—	8.200	
70½	6½	3½	3½	—	40.100	
11	—	—	5	5	500	
30	1	2	13	—	2.000	
12½	1	—	3	—	1.880	
164	4	9½	2	2	—	2
77½	13½	1½	10	—	—	
325	14	35	59½	—	15.600	7
2429	241½	162½	517½	75	100.055	62

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO
7-1

①

Mrs. N. G. Shiri
1544 Leonard St.
London, Ont.

Not much on
personal experiences
mostly about Fraser Valley
and the list in
back contains recent
statistics on Japanese in Fraser Valley

Useful information
re: Fraser Valley Japanese
Farmers.

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO
フ-1

1.

戦前フレザーバレイ日系人農業実況

新美吉郎

加奈陀日系史約六十年に亘る過去を回顧する時
昭和七年を稽ふる出来事の走馬燈の如く流る・来る
中に無れを体験した我々肥中に一生忘れる事の
出来ない一大痛恨事は何人と言っても第二次大戦
後発生時帰化もこれも大平洋沿岸百哩以内にある
在留日系人は悉く敵系人として加奈軍部の司令に
依りビーシー奥地又は山東州に立退きを強制された
事であった

当時わずかに二万四千人 其の内訳割
強が沿岸に生活し、是等の職業別としては山林業、
漁業、農業、及び晩市を中心とする各種の商業
其の他製材又はパルプ工場 就業者であって、
是等の日系人は例の一九四一年パールハーバー爆撃直後
翌年九月には全部の商店、事業、計画等、又は事
故、通り所にかゝわらず一名残らず立退きを厳
令を受けて呉の間に置かれる日系人の恐怖驚愕は
筆舌に言語に尽るしがたかった

今私は大陸動に
関して其の内容を書く迄である知識もなく又余白を持た
なっまを残念と意ふが 偶々私はフレザーバレイに於て
長年農業を計画して居り一九三九年迄来住
フレザーバレイ農業協会の幹事、並に西部加奈ハプル組合の
支配人として職務を執りた事の前記立退き際

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

各地農村における同胞が多くの犠牲者、牛馬養鶏等の
度々来襲農員数名傷者方、更に永年汗流るに関係
した自ら農園を営き去らに去り行く度毎心に悩み
全く狂乱のめく騒ぎを思様なる体験の記憶は今尚心胸
中に意々新たに湧き出ずして来る
立退き当時のお子の思感としては戦争は一日も永く続
二ヶ年目には慣れ付く、遂に再び自分の農園に帰り来る
と言う事であった、既に植付済の作物は隣家の白人に
彼等の一方的な安値役に売渡し、土地や建物は保存する
可く儀かに譲渡されたカストディアンに頼りて泣く泣く妻子の手
を引き奥地のゴーストタウンに移動したのであった、
其の後四ヶ年半戦争の終末は恢々一般の知る如く益に繰り
返すことはぶき、時を今尚忘れ得ない恨事は見渡す
農地がカストディアン並にソルジャーやセアトルメンボードに依る所謂
一第三文の價格で我々地主に強断に売却され再びこの等
農園に帰り行けなかった事である、其れから流日月を十七
年、江前日系人に係る整理、さらに農園の面影は見る可くも
無いと云迄である、

一九四十年の春、当時映画駐在日本陸軍川崎一郎氏より
海外移民調査の為め農業実況調査方農業協会に
依頼あり各地農業又は組合を訪ねて正確に作製した
農業実況一覧表が私の手元にあるさ幸い思さ提出す
載前フレザー川沿農村に置ける日系パイオニアの発展の
後さ吠る偉業の日系史に記録さるべき次第である。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO. 7-1

S. J. Shiro
~~Toronto Buddhist Church~~
~~918 BATHURST STREET~~
TORONTO 4, ONTARIO
159 Gerrard St. E.

TORONTO ONTARIO
OCT 8
7 30 PM
1958
CANADA

Useful information

National J.C.C.A.

(History compilation committee) 415 Spadina ave.

Toronto. Ont.

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER NO. 7-1

S. Tokunaga
P.O. Box 1031,
Brantford, Ont.

National JCCA History Contest,
415 Spadina Ave.
Toronto,
Ont.

NATIONAL JCCA'S JAPANESE CANADIAN HISTORY CONTEST
415 Spadina Ave., Toronto, Ontario

Name: Sutaro Tokunaga Age: 67
Address: P.O. Box 1031,
City or Town: Brantford, Province: Ont.

OFFICIAL ENTRY FORM

岳父を語る

徳永壽太郎

一八九〇年十二月横浜を出帆したシティーオブペキン号に当時二十六才の日本青年が乗っていた。大なる希望を抱いてアメリカに渡るのである。船が太平洋の荒波に乗り出した頃支那人ボーイが彼に駆寄り、船底の積荷の中に日本人らしい若者が潜んで苦んでいると知らせて来た。行って見ると十五六の少年が船員軍で見られる哀れに血を吐きながら悶え伏している。事情を聞くと、この少年も同じく大望を抱いて憧れの米国へ行くことに決意したけれど旅費が乏しく運送問屋の世話で荷物に給らせて乗ったのだという。彼は少年の境遇に深く同情し出来る限りの介抱を施した。又船長に会って寛大なる措置を願った。船長も已むなく承諾し船が翠港に着いた時は

上陸手続まで済ませて居た。この少年は先ず
から米国東部へ移り幾多の辛酸をなめて士
官学校を出て更にボストン大学を卒業した
黒田四郎という人であるが、私が二人に話らんと
するのは この少年を抱いた青年池田有親と
いう人のことである。彼は其後加州からカナダ
アラスカまで当時未開であった沿岸地帯の
山野を歩き廻り多くの新しい事業を始め
たのである。然し波瀾に富んだ彼の足跡を
この限られた字数の稿に書き盡すことは出来
ぬ。茲で私は記録をたどって主なるものを拾
って見よう
池田有親は私の妻の父である。彼は一八六四年
丁度維新の四年前に新潟県に生れた。明治
になって初めて出来た小学校に入学したが、小供
の時から秀才であったと見えて十四才の時 たま
たま 明治天皇が北陸地方御巡幸の際「平素

学力優等に付金一封天皇陛下より御下賜
候若地」という賞状も戴いた。陛下から直接
の御下賜で彼は非常な光栄に感激したの
であった。十六才の時東京に出て英語と漢
学を学んでいたが後に長野の学校へ移り医
学の初歩を修めた。多分医者になる積りで
あったのであろう。
然し性来冒険好きで事業熱に燃えていた
彼は学校を止めて軽井澤で親戚の持って
いた広い荒地を開墾することを企てた。郷里
から数人の農夫を呼寄せ、まだ其地方になかっ
たアップルや栗の苗木も数百本植付けたが
不幸にも野兎に全部食い枯されてしまった。
尚アメリカからキャベツ、トマト、レタスなどの
種を取寄せて栽培、その大きな池には鯉
も養殖した。地味と氣候に恵まれて元々の
作物は良く出来たが、まだ一般に西洋野菜

の便用法を知らぬ時代で地方には賣先がなく
東京横濱の外人に供給するには鉄道がない
時で運搬に莫大の費用がかゝり到底收支
償わず、この開墾事業は時機尚早という
訳で遂に失敗に終った。
それから數十年後
に彼は軽井澤を訪れたことがあるが、この地が
世界的に有名の避暑地となり彼が夢の養
魚池は雲場が池という名所になっているのを
見て今昔の感に打たれたという。
彼は大正の頃から山田長政に憧れ日本人の海
外発展の重要性を感じていた。二十六才の時
彼は意を決して アメリカに渡り 初め加州
ヴァカビルで農園に働いた。 その頃の彼は熱心
なキリスト教信者で教会本部からエキゾーター
の資格を得て その地方の同胞を集め神の
福音を説いたり(同じエキゾーターは十九世紀の頃に行われた牧師代理の巡評者のことである)当時の同胞間には娯楽
機関が乏しく 多くの人々は賭博に耽って居る

有様であった。氏は彼は一八九三年同志を誘い労働組合を組織し同胞の向上発展を計り当時資金を集め組合員の会堂を建てた。氏が太平洋沿岸の日本人間では最初の労働組合であったとのことである。一八九四年彼は日本を訪問するにあたり一時組合を解散して建物全部を教会に寄贈した。氏が少年カビル日本人教会の創りである。

其頃彼はメキシコ政府の諒解を得てメキシコに広大なる土地の拓下を受け大々的に日本移民を送ることを企てた。当時の農商務大臣榎本武揚、桑港領事珍田捨巳諸氏の後援で大分話は進んだのであったが何かの支障で中止となったのは残念なことであった。

翌年日本から帰り加州ダンビルという所で土地を借り農業をやっていたが、たまたまクロンダイキに金鉱発見され いわゆるゴールドラッシュ

で米国其他から数千人の探検者が出掛けた。
元来冒険好きの彼はじっとして居られず遂に
大堀という友人と二人でアラスカに向った。財金の
全部を投じて防寒具、食料品、採金道具及
び長期滞在の計画で農具や穀物野菜の
種まで二頭にあまる荷物を積んで出掛け
たのである。彼がアラスカ探検中無人境に酷
寒と飢餓に戦い幾度か死線を越えた話
は二冊で書く紙面がないが この体験記は「ア
ラスカ氷山旅行」と題して一九〇三年東京で
出版された。兎に角大金鉱の発見は遂に実
現せずに終った。

彼は其後二ヶ年アラスカ首都シトカに留って
働きながら漁業に就て研究した。そしてそう
沿岸に鮭が頗る豊富なことを確かめたので
一九〇二年日本へ行き海産物商数人と共同で
東丸（ヒガシ）という帆船を買入れ アラスカで塩鮭を

製造して日本へ輸出することを始めた。初年は好漁で收益があったが翌年船火事で大損失を蒙った為に新角の計画は二年で中止した。

一九〇四年十、イモ附近の海岸に鰊の群が押寄せ何百噸もの魚が岸に打上げて腐っているのを見、そこにヒントを得て鰊から肥料と油を製造する工場を建てたが不幸にも火事に遇って工場は全焼した。不撓不屈の彼は直に工場を再建したのであるが その頃既に発生していたビーエー州政の東洋人排斥熱は政治家の政争の具に使われ、彼の事業は問題となって州政府から中止を要求された。そこで彼は政府を相手に訴訟を起し、裁判では勝ったけれど今度は食料品たる鰊をこの漁区内では肥料に製造することを禁ずという法律を作られたので終に工場を閉鎖するの止むなきに至った。

そこで彼は塩鮭を試験的に作り支那方面に販路を拓くことを始めたが 中途にして亦を他の日系人に譲り渡した。亦が後にカナダ日系人間の重要なる産業の一つになったのである

さて彼は新しい漁場を見出すべく帆船ドウジン号とギャスリン船千里号に十二人の漁夫と潜水夫を連れて北方に向った。ドウソンは彼の設計で造らせた長さ百五十呎幅三十三呎の船で、中に肥料製造の設備を付けた工船であった。

クイン シャロット群島の一つモレスビー島の南端にふさた湾がある。彼がそこに立寄った時、偶然にも良質の鋼鉱を発見した。一九〇六年四月のことであった。

そこが その場所が地図に載っていないので鉱区獲得の願書に書きようがない。そこでビクトリヤに出頭して湾の形に写真を添えて出願した。間もなく中央政府から今後永久にこの地を「イケダベー」と命名する旨を通知

いた。カナダの地名に日系人の名前を用いたのは多分これが始めであろう。

一九〇六年池田鉱山は日本の資本を入れて採鉱に着手した。機械の買入れ、鉄道の布設、埠頭の建設など他の設備を整え、カナダ政府の許可で日本から七十餘名の労働者を呼寄せ一時は百五十人の就業者がいた。此時黒田四郎氏が東部から移って来て彼の片腕となって働いた。十六年前に船中で助けられた恩人のために良職を捨てて来たのだという話！！

エピソードを残している。

其後晩香波地方の白人の資本を加えて資本金八十五万弗の株式会社として経営していたが一九二〇年銅價暴落で閉鎖するに至った。

鉱山発見当時は太平洋沿岸の新聞雑誌が大仰に報道したので一時に多数の探検者がクイーンシャロット島に押寄せ、池田湾の陣の

ゼドウエーなどは急にホテルやバーが出来たという。又日本でも大きく宣傳された。彼を主人公とする「世界の大宝庫」とか「快男子池田有親」とかいう本が續々出版された。何れも事実を誇張してあるので彼は甚だ迷惑したそうだ。

豊富なるカナダの天然資源を日本の資本に依り開発することが彼の年来の願望であった。一九一九年彼は日本へ行き財界の巨頭四十七人の賛同を得て資本金五千万円（約二千五百万弗）の加奈陀興業株式会社を組織した。会社の目的はカナダの鉱山を買入れ必要に應じて製煉所を建てることカナダに山林を買收し、ソーミル、パルプミル、ペーパーミルを経営することなどであった。会社は先づ技師を送って調査することとなり鉱山と山林の技師数名が日本から来てビーシー州の各地を踏査して帰った。その

結果企業は有望との事で早速事業開始の決議をした。愛知県の数日後に世界的の経済界大恐慌が日本にも襲来した。財界の人々は今更海外への投資どころではないと一切に財布の紐を締めたので、この企画も立消えとなった。

日本の水産局は一九二四年から十年計画で米国産優良魚族の増殖をすることになった。池田有親は嘱託を受けて毎年多量の虹鱒、河鱒及び珍らしい貝類を米国、カナダから移殖した。昭和六年日本全国湖沼河川養殖研究会の大会で彼は増殖事業に甚大なる貢献したとの故を以て表彰された。

一九二六年彼は蠔下式牡蠣養殖法を考案したカナダの特許権を得た。これは牡蠣を筏に吊って養殖する方法で特長は発育が早く採集に便利なことである。彼は此方法を用いてギャンビー島で養殖を始めたが、本格

的にやったら有望であったろうが何分小規模で試験的のまゝに終った

彼は一九三九年七十五才をもって晩香坡で数奇の生涯を終えた、

こう書いて見ると彼の事業は規模が大きすぎたり時機が早すぎたりで殆ど失敗に帰している。然し彼は金を残す人ではなかった、少しでも出来ると必ずそれを利用して他に新しい仕事を計画した。従って財的には成功せなかったが多くの探検家や発明家に見るように私利を顧みず、時には家庭をも忘れて自己の信ずる處に邁進せんとする開拓精神に充ちた人であったといえよう

彼は常に漢詩を好み、自分も天遊と號して澤山の詩を作った、其中に還暦所感として次のようなのがある。彼の性格が現われていると思う

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

六十一年渡此生　　変遷幾度仕人評
落機峰山太洋水　　霽月光風萬古情

然了剛健の気が彼の全貌ではなくて一面にはやさしい人情味もあった。晩年には妻と睦まじく旅行に出掛けたり、孫共も相手に庭でたわむれ、良きお祖父様振りも見せていた。

臨終に息子の手を握り「金貸でもなし、又金持になれたらなってもよし、それは人生の目的ではない。只正しい人間となれ」という言葉を最後に目を閉じたのである。

字数　題字
本文　三九五五

H. S. KONOKAWA, 109 EAST 91 STREET, NEW YORK 28, N. Y.

極東商市様

不変御多忙の事と存じます。故に日系カナダ人史の原稿を短くして歌文を歌文を組入れました。

審査員が一人でもうと思なれる貴兄へ直接送りましたから、何卒「御紹介」御取扱を願ひます。

字数は規定の四千字以内ですが、所式の日系稿用紙に記載されます人でいらっしゃいので、その点御寛容を御願ひます。

カナダの[redacted]京歌壇を編集されます[illegible]「捷報」「鉄鞭」を作る「和英西方」中、何か御参考にもなり得る度御座いましたら、御自由に御特載なり御使用下されば、幸甚の至り、至極満足と存じます。

仕舞の節は私の友人山田晨彦 3522 Lincoln Ave. Toronto 6, Ont. に御送付下されば、すぐ送ってくれます。近い将来に於て御計劃のため彼の元へ多量送附してありますが、未発表義

在紐育市　此川清一

No. 2

H. S. KONOKAWA, 109 EAST 91 STREET, NEW YORK 28, N. Y.

義定の時期ではなく、歌の時が来りましたら、充分な資材を改めて送りますから、その時は大に御幸援を御願ひます。

第二の歌は

是も為分為表拙いと仰せられたのですが、あの十四子達を日本の大乳基督者に育んで貰って、アメリカなる新しき御大な信仰者かれた、教育者と歌ひ、実の教師かれた、今の最大悲劇を見吸し生活苦と斗病の苦中に執って遂に信念によって勝ち抜いた人を博く伝へて祖国の魂を反省せしめ奮起させたいに、新しい装いをして共刊致す事と存じます。

それで私の明治史詩の文章を、宣教百年祭記念祝日博覧のマネキンやで今行なってゐる、神仏教会の吉野大牧師が現代文に書換えられます。

最初の三千部を私が実際して、それを新聞紙として次の印刷費に充て自給自足的に出版して行く様に考へたものです。

在紐育市　此川清一

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

H. S. KONOKAWA, 109 EAST 91 STREET, NEW YORK 28, N. Y.

而で吉野教師のやさるまは、奈良のそれは
日本のちまはかちの歴史地市のの社寺
性教育の到達と謂うべきから、金杯教師
在世当時の社会が如何に腐敗してゐたかを
知り得る文献が欲しいと申されます。
そこで私の頭に浮んだのは、あの当時
大陸日報社で「国宝探検班」と
言ひ張るスッパ抜きのもの多き発刊さ
れましたが、未だ読んでゐないから
内容をはっきりせぬ、若しかが是も
適当な資料ではないかと思ふのです。
若し市内方面一週間位隠居されて頂
たい・仲麻呂問題を抜萃したいのです。
勿論かりそれは門前不出のものもあるし
出発に伝説として書き写して頂くのです。
唐一西年祥にふいらう強ひが市長人の方が
保存してゐられるか、是等の事につき
市当局と貴方をして頂きたいのですが？
甚だ市内例ずつを持出して清文まさんが
何とか協力してと賛いたいのです。
或は他によい文献があるでしょうか？
左怨術とは何ぞ一しも
特に市伝説アーカイブ

（日付なし）

在紐育市　此川清一

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
FOLDER NO. 7-1

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

C. of NJCCA.

HARRY S. KONOKAWA
109 East 91st Street
NEW YORK 28, N. Y.

一日百万人史――感謝の人

休戦記念と高塊

花組育市 此川清一

人数の多い人史なる限り、永久に青史に残すこと、第一次募集の大戦休戦日として、記念されるであろう。

私はこの日を迎ふる毎に、記憶を新にし快快楽々親しみ、イピソードが多くて、語りて見たい。

晩春坡市の目抜の一角、グラこヴエル街へドソンスベリー百貨店の眞向に、民族的美度を標示する、堂々たる『盛来高塊』が構いて居た。

私は多朝出勤したとき、街は口禍を押し出して騒いでゐる……休戦の情報が来たからしい――

高塊造りの饅角鋭くとがらして、高槍を抱まんと虎視眈々たる彼は、白ゆたと叫んだ。本物の休戦近く来るぞーと直覚したので、そのまま飛ばした。

俺たちのホール、セール屋をかけ回し、群衆軍の旗と云ふ旗全部を買占めて、すぐ送れと命令した。

午後になると、ある御高から、坂の途段の倍で買ーしたくんれとの高談が来た。この坂野郎、今にふてぶてしいとは言はなかったが、騒ぐ――

果せる哉、三日目に本物の休戦が来た。街の隅々まで沸きあがる大騒ぎ、サ迷からが成々の角かだ、一度千金の時が来たと、欲の皮をつ張って、モモ千を一年ら、ホサイカイをこ三時ーに突差に巡公が来た。市長の命令で今日休日、店をはやくしめろとー――

彼はすぐ市役所へかけつけて市長に面会した。御高の旗全部買占めたが、旗ふくて何の記念日かな、旗以外に何も

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

賣るのから一度をあけさせよ。是が市民の熱望でもあると、直射的に説き付ける。市長は何を大笑、僕は禍を買はうつか、老々極熱のヨサを買ふと。オーケーする。

言や言葉だけでは駄目だ、市長の名刺にO.K.と書てし出し、三枚欲しい、本店以外に、スランプ街の支店、グランヴェル街の上町支店と一一（ビュートリア支店集）新しい鬼の首をヒキムシリ以上の満悦感で引揚た。

店の窓窓に市長の名刺を張り付け巡公に回る、市長の公認で完売するか、狂熱的庶民衆、或は野次馬等が押よせ、窓ガラスの破壊や、或は乱暴狼藉をする怖があるから、市民の安全保護せよとの市長の言葉にも有ると、場当的ケ出鱈目を述べ、マンマと安全勝地店前に起てしまった。

強と目新聞通りどおりした街は、色式を中に熱狂した戦勝辞典後の渦巻きの流れ、押しあいのしあいで、こみあげてくるのカキキリ声の歓声、どよめきの狂声、それにラッパ、ナベ底叩く音、雑音等々が、地の底をコガリあげ揺り動すようである。

禍か福か、禍か何か、あるにあるとばかりに、どっと押寄せてくる、その人波と混乱、まるで喧嘩、人を押のけつき飛ばしてゆくのである。巡公は整理に狼狽ヨロメキの有様であった。

一体高賃と云ふものは、常識と供給の関係如何で、値段が定まるのが一般の原則である。需要は全限的で、供給は制限されてゆく、加ふるに高級もよく競争者もふえ、全く全敵獅占主義である。賃格もふえ様で、言はゞ戦勝熱狂プライスであった。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

世俗の言葉に、ホットケーキのごとく、甘い物に飢かたかる、
と言ふが、まんざらナマ優しい形容でもなく、もっと物すごい
實態である。群衆は横の廣巾種数を考へるタイムかふかい、
何でも横が欲しいそれが穏である。俺ゐもう〜とお金を
却んでさー逃べる年か、横行列でもく年行列である。
箱の上に乗った彼は、そう年をのぞき人で、お金に変ト
横を振るだけの仕事、それ以外に何も出来ず
殺傷振りである。

ドッすりと積まれた横の山も、時をまたづる山崩れかけ
姿を消したが、民衆は知ふい、奥に隠したに
相違ないから それを出せと迫る。遂に逃げを炸裂して
「客掛いしする且ちど、高位の遂コースの珍現象でもあった。

頃で一体いくら儲けたか、当かせろ！と読者の詮文だが、
高家の得意的口偶崇の尽に曰く、「決して他言相成ず候」と
かたく禁ずるが、特にアナタだけに と断って 耳うちは、
強歌五万弗近くの品物が、一日の中に風船を飛ばしつつ、ふくれて、
何と五千弗近くにふくらむ驚く、こんなボロイ儲は愛に
千歳一遇で、莫勝千金とも言ふべく、忘れんとしても忘れられず
まる現かふい夜。

さて千歳一遇とそふ言葉にいいと一言添えたい。
ブッ千ヤンスとそふすの生、中に来ふいものを千年に一回
位かと、南京さん式誇張的表現で千歳一遇と、
言ったのだが、私に言せるーむの生、千ヤンスはゴロ〜
して道ばたの石のごとく、行く先々に転がって、
たゞそれを拾ふ人と選ぶ人と準備が出来ておふいから、惜しい哉

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

何故かと言えば、個人に何事か起るとすぐに「変化はチャンス」である故に、その源因佐保を克明に調査し振りさげる。
まず其原因は何か新しいもの、人の家かつかふい点、先年を打つ方法等が考へられる。それが即チャンスである。それを把握するは、賢明で深慮ふ用意かと、明快な決断力が最重要である。

私は日系人に吉法士に希望致す事は、
全生を常に研究的態度であるべ、無変化でありたい、
また抗く強く言えば、ビリー デイヤン レヨン的な観察を、
積極的人生を観ずるべきである。
かすかの天地は無尽蔵の資源・法則の宝庫を待ちわる。
別途洋々無限の資源を、法則の宝庫を待ちわる。
この力強と国命を共にする法士に、栄光と発展あれと
希ふと同時に、基督教徒で育れた魂を、基督教
立戦で育と、貴い信念に活きることの理想をいろいろ、
美良なる市民として一神と人に捧げ生き、尊ふライフを
全ふする為に切望し祈る者です。

■ 因に盛本高吉氏人盛本勝太郎氏長男は、広島県
佐伯郡沖見町岡と云ふ山奥の僻村に健在、
盛本氏は本年八三才夫人は七四歳、老衰の信保
服と耳は十分に活用ならず、従て夫人の看護と
妙かりお手柔毒です。家族方の音信を
希望致します

筆者は組合市北米新聞社長

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER
7-1

Mrs. W. Pankhurst

New York.

about

(Boy)
(Girl)

He is presently living in
New York but once
lived in Vancouver till
an elder of the one after
I told Don Marlee
and a Mr. Mainwaring got the
idea of providing available
Can. flags behind the
iron at grand Rifle

about business

the ~~[illegible]~~
women

(prostitutes)
not allow
[illegible]

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

(3)

梅日記

青木義一

一、平静な心境ですし
書くものがすらすらと
二、楽しく書きたいと
思っております
三、いろいろ一段は始めの
方書きたいと思ってます
だんだん機運が
よくなってきて
四、なかなか楽しく
面白くなるのが
楽しみです

SEP 3 - '58

五、戻って来る場合は本社
に勤務するつもりです
書く事は書きたい
六、なるべく毎日
書きたいと思
います

シアトル 斜歩

移民裏話

△失恋者

移民二年の後移動と
同時の手数料上、ロスへ
ら七割が、B.C.の奥地
に移動した、これからは
土地を、「メシメ」は別ケー
ヤスロ、スローガセ、グリンラード、
グランホークス等々のゴースト
タウンに、一時、日本人部落

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

先住者の居たるを、いつの頃は無論なれども、B.C.
四世紀の終頃(紀元前)に、一般同胞の隠れて、善良
なる先住者を移住民族の為に、追放せられたるもの
なり、カムロプス、バーノン、ケロナ、
レバスーク、ネルソン、クランブルク、
B.C.のアルバタの高原に在る
フワネー、さいは、B.C.中の品
色の石炭の発見に、日本
その所有が迫めたる
ものなること、日本の

が盛り上って来るは慶
事なれども、南面されたる、解
放せられたる所なれども、
年年毎、高地の町の
ある、カムロプス、バーノン、ケロナ、
レバスーク、ネルソン、クランブルク、
B.C.のアルバタの高原に在る
フワネー、さいは、B.C.中の品
色の石炭の発見に、日本
その所有が迫めたる
ものなること、日本の

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

塔は、花崗岩の巨石を積み
かさねて作られた御殿
と聞いた。なるほど、一つ
の建物に住むが、地下
一階の一階
玄関の桃色のカーテン
のひくさを見た。客室は
はあいに黒味の強い茶の
巻、ネルソンの花瓶が
やはり紅白陰の石を置く

附近に、ラブルの石の山が石
で、部屋石・飾り・ナラール
等の夏冬いろいろ石
を見た。人は棒ヶ上で地
の下にどうもあり、ちょうど墓
かなり、湖石の吹き上り
噴水は、ある日不知、石は
使はしいもの、
まるで八年の百年の恩
後の下を、大ハウスつくり

化粧室から、一人ずつ
抱えてあるが、彼女、
「私はチャブ屋を
出てまもなくだが、誰かが
ちらつはーーのー」
「ほらチャブ屋はすぐ、晩酌の
ばいきんーーよう、」
彼女の「今行く」の声で、チャブ屋
かすまで、あそこを越えて
年配、イワ兄さんはコワ

五の一軒のドアをたたいて、
十四五才の少女が顔を出す。
手拭のセルスマンで、物を売
るようにかけても、おなじ人形の
強い男、彼女のスーツケース
は重そうにぶら下がる
花街の夏は死の叫び声
が静かにあるが、二階の
ひとつの彼女の同年配位
の日本娘が、ぼんやりと、表

ウイスキーか甘酸はん、空手の
霧ふ影が有る

△混血児一三人有る

「同じしゃりん三位で有るが此の B.C.
の山奥に御会しまるは、男と
が居ひるアーと」

「まる色々居が有る」第一部が
あ浮出る男、年々ちまーよ
年2成るまで居た居た
立出が俺達達て、市長
が話て、市の活潑運動

で倶 りまるなる
エンブロレをのけてる

「ヤーよくかなる中、二三日る
2度の事で要で
ちが明日の待ちた
正右、よくまで呉れて
ケンケンは色の本城に
よくて、活まる、夜の市長
で、話な山を起こばかりた」

白粉か香水、ワインか、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

ものはどうこう言うかチャブ茶
を、あなたは言わないから
昼飯へ中食のとき、お霜(シモ)
婆を、この世に眠のお米(ヨネ)
合いますと、合のるの「ロ」に
ヒゲ
単下するがは白眼のお米は
善のうち、ムー振りこと合う
たの。「私ン結婚ーしますよ」ーーー
先生を行出さ、がっかりしまーと
「ハー、君は何事かスキ好きで

で信みあいと、シャルで居る
ものと、スポットに移動した
ものは居ると知ってるだろう」
「皆様がスポットにお移り
ってあるとの事の事、店主
が、私に同のり先場であると、
ヒゲ
単下アイサツに行て欲しの、言
われて、私の名刺のはん
同様の手紙を持て、スポット
に行ってきました。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST
フ-ノ

一、結婚式の様子

花嫁は白い衣装に身を包み、
フジ一ヶ丘の人々は
祝福する。

花嫁——梅子さん

結婚式を挙げるのは
初めてのことだ。
式は厳かに、
しかし温かい雰囲気の中で
行われた。

式が終わると、
参列者たちが
花嫁と花婿を囲んで
祝福の言葉を
かけた。

[illegible]

すまめたらーく舞ふ声、
カラボーイの踊りて、アラスカ、
ユラユラへ一旦は沙金を掘して
行く連中が名残をする
三人、ちくに「夜の花」が舞ひ
はなやかに舞ひ、
おかちゃーろ 彼女等の中に唱ひ
咲く乱れ撫子(ナデシコ)の一團の声を
支那人の辮子様だ、
去り日本人の給料は、スクル
ボーイ、コック、皿洗い、野外

△ 一九〇〇年頃の沙港(シャトル)
シャトル市のエスラー街には角の
一廓は、ダークサイド、暗黒街、
すっかり暮、白T.V.なる
西部劇の場面、ソックリ
の四ツ角でも四軒ある酒場
階下にピヤダース、階上にバクチ場
夕方に成る。フライケネ、イツプス
ハウドツグ等々の夜、何か呑んで、
街上に ピストルの音を聞く

の仕事は鉄道御用一点張りに一付同
十仙、其れも右や無し、分宿に
ゴロ〱して居る同胞が多かった、
到底紐育等のカセギと合ぬ
者は一人も無い。紐育等の
内縁の「ボーイ」が日本食料品
日本名雑貨店、フルツ店、又は店
ほとんど日本人の独占的であった、十仙
レストランド等の方面にあって
紐育等の経済的、政治

信論が四週て経たれは説明
を要さない、邦字新聞の報
道等、其間にてあったる者は
義理〱するにあるそれが事実
を抹殺するは其無い
紐育等は日本移民の先
駆者にして、又同胞間の経済
的貢献者であった、之を支持
する識者は無いが事実を
否定するは甚だ無い

「苔むす」があるであらう、この
汚れた（ヨゴ）身体を「清め」
ずゐは佛、耶、を不問、
信仰者の祭（マツリ）壇上
あらうか、等者の一文
字（が）の我々を成し得
れる時にある

こゝに清らかに新たに展る
我等一世代、水槽の砂利
嘴（くち）ばし等の鳥がのこれる
すべて感じ、これを上（うら）自分し
ボ
霊魂をれの白内にあるが
若しの花冠
同胞の元展りこゝ
言葉が中にいかるにあれ
ば主の一番下僕のうちて
仏あるすの歩みあわれも
べき一生を静めて考へ

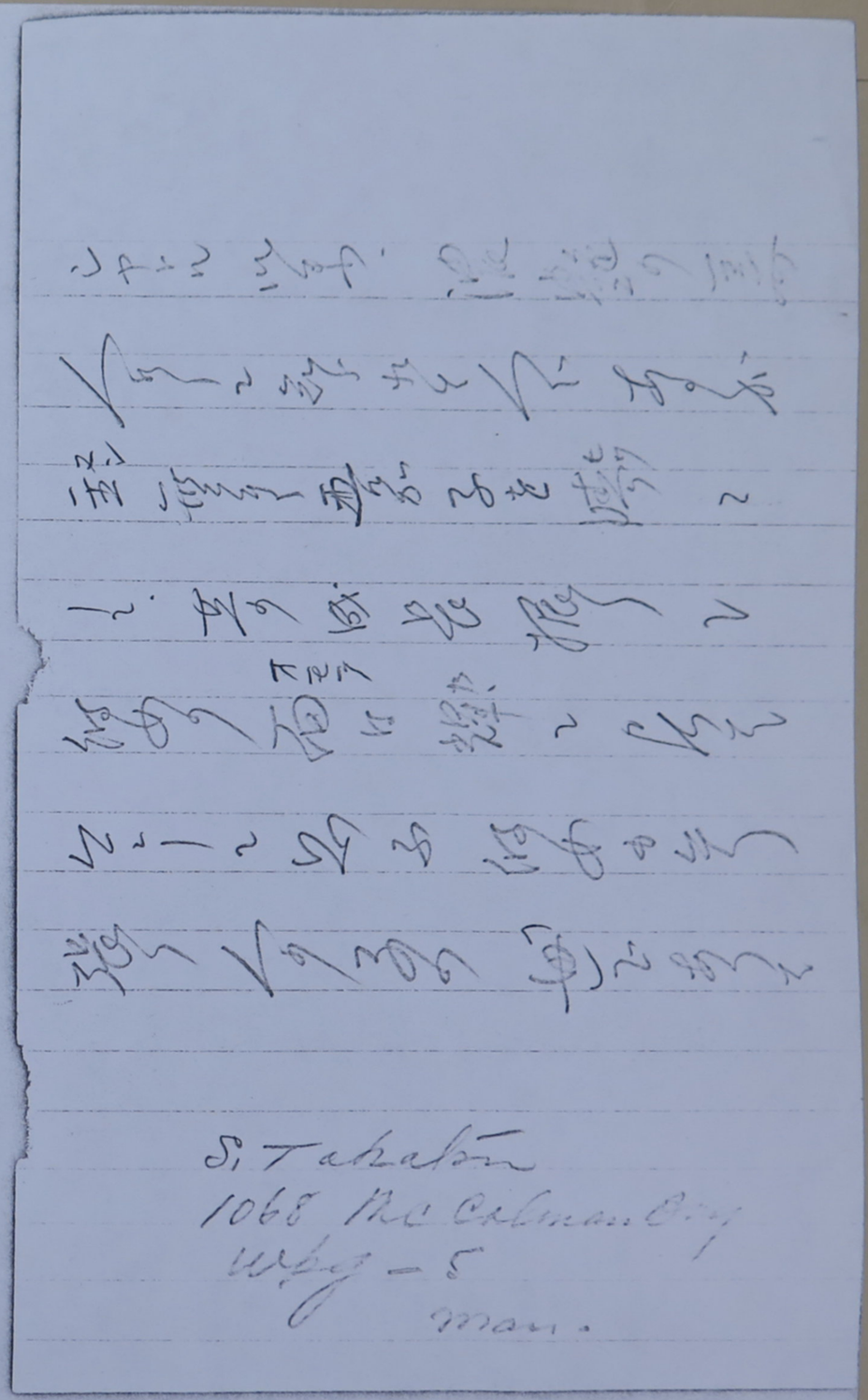
のちに野口雨情と長男が生まれ、ショート
パンツにボーイカット髪の
長男が、父の、暗い
影を見たような気がした。妻は
夏季手術のため
妙子（さんのおばあさん）
旅行にうつるブルクを
生涯三回目のベビーを
見た。父のようは好奇心
つよい

毎日七尺木の曲がって

余話

腹血巡三郎要は巡査ミンシュウ
出産の為の毒の為る恐れ
る所にある
お米は当時既ナセクイで
あった、何かの生涯
産婦の口言葉、高く高くし
異場の出るとき、口答する
悪ーる
あれもあるこの方にも
十一才位の男の子は、見

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST



S. Takahashi
1068 McCalman Cr
Wpg - 5
man.

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

(書き方は裏面)

NATIONAL JCCA'S
JAPANESE CANADIAN HISTORY CONTEST
415 Spadina Ave.,
Toronto 2-B, Ontario

me: TAYE MIYAMOTO Age: 44
dress: 225 DUNDAS ST. E.
y or Town: TORONTO 2 Prov. ONT.

亡父を思い

トロント　宮本タエ

おかあさま
泣かずにねんねいたしましょう
赤いお船のおみやげは
あのとうさまの笑い顔

思い出したこの歌は長い間忘れていた
歌、七つ八つの頃悲しい思いで一人でさびしく
唄っていた懐かしい歌　たしか一番は

おかあさま
泣かずにねんねいたしましょう
あしたの朝は浜に出て
お船を待ちましょう。だった。

そして番は

おかあさま
泣かずにねんねいたしましょう
あしたの朝は浜に出ちましょう。だった。
あのとうさまを待て

私は山口甚之進の長女として大正三年八月バンクーバーのパウエル街に生まれました。父母は寫眞結婚だったそうですが不幸にして、父は父を嫌いで、とうとう私が五つの時、三才の妹笑ちゃんと生後八ヶ月の弟進を私と三人を連れて、父母の故郷なる鹿児島県薩摩郡下甑村の字、瀬々崎に歸ったのです。

そして私が小学校三年生の夏休みに母は妹と私を連れ、姉夫婦にあづけて進は母の姉夫婦に大阪に移りました。

日本に歸った當時、幼なくて無邪気な妹は パパ、パパ、と母が笑ちゃんを箱に入れてアメリカに流してやるとおこっていられた事を私はおぼえていますからいい、いい。

歸って來ないオがよいと思っていた父が二十年振位に突然のようこり何の通知もなく歸って來られたのです。それは一九三八年四月五日でした。

私がタエお仕事から歸ると、お母さんがタエちゃん、お前達のお父さんがバンクーバ

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

かう帰って来て輝志様はやはり遂いに来なさいと、やんは遂いにはなんか行かないとしても行きません。

この時分不景氣の為長く住み馴れた大阪府兵庫県の尼崎に住んでいた。

この頃南部春木町を後に終って間のない頃でした。

私はのらりくらりと毎日の様に直ぐ父に逢いに行きたい。

幼い頃から母から父の悪い事を聞いて育った私達は母の様に母から嫌がる父に逢いに行かないといふのも無理がない。

母は困った子だと嫌がる人ですのに逢いたいのです。

母はをうゆう人で悪い様に人にもゆうのですが悪い様に人にもゆうのです。

母さんが悪いのでしたと思って、親に口答へするちゃんと女学校をおたのしたと思って、親に口答へするちゃんと親を馬鹿にするとかいってこり出すのです。

さて私はオールドスタイルの老眼鏡をかけて胸をたたき、

「健康をうたな父が私をみて、きながらこれがユーのパパなのか。」わかるか。

と涙を流してなげいてをられるのを人事の様に見て長い間父はい顔のおそろしいのが後日仕方なく輝志様と同じ人と思ってをいましたが後日仕方なく輝志様と同じ人と思ってをいで安心致しました。

来られた父を見て嫌ってしまいました。

父は来年で七十才になるのでオールドベンションをやらへるのだが人にすいめられてお前達を見に来た。

さあパパは七十すぎたら何時死ぬかわからないのだから、パパが生きている内に生れ故郷のバンクーバーに行って見て来なさい。

進は男だから日本に帰ってパパが一人の弟一人太一父の弟一人のパパがみかんらいしるの土地をよみて来なさい。

あれはパパパパパパがみかんらいしるの土地をよみて来なさい。

一番良い国と思ふが行ってみて嫌がっぱってやる。

すぐ帰って来なさい。

従兄の輝兄さんもおいで父さすけるのだから心配しないで行ってみてあげるから三年したら帰って来なさい。

その代りに三年したらすぐ帰って来なさい。

姉ちゃんが行かないので遊んでいたら一人寂しい

行く同じ行く[illegible]
早く行きたいといいだしたのが急に話がきまり
[illegible]五月二十五日神戸港から氷川丸に[illegible]
バンクーバーに着いたのは六月六日の好いお
天気の日でした。六甲の山の中の様な静かな
町と思いました。
あれから早や二十年は過ぎたがこの二十年
は短かく、父に逢ふまでのあの二十年近い年
月は何と長かったことよ、とゆう思がするの
を患へながら二十年振りに日本に帰って来ら
れた父も父にすれば短かかったでしょうと
思っています。又読み書き出来ない父がパパ
が帰った事は新聞にのる筈だといはれた事も
カナダに来て何々丸上陸者と日本人新聞に名
前が出るのでわかり今でも何々丸上陸者と
いふのをみて父を思い出しています。又カナ
ダはお父さんのおっしゃった通り良い國です
ね。豊かな住みよい國ですね皆と話したいと
思っても父はもうこの世の人ではないのです。
三年したら帰ってきなさいといった輝兄さん
は妻子を残して三年もしない内に病気でなく
なられ信じていた輝兄さんの父である唯一
人の父の弟の八太叔父は進には土地はわけて
くれるどころか母や村の人達と共に父を馬鹿
にしたとゆうことです。
そして母には私達が「おっさん」と呼んで
いた人の子供が二人もあったが「父は「ママ
が悪いのだ」といって芳男と正一を可愛が
っていられた事等思い出して あまりに不幸
な父よと泣くにも泣けない気持ちになりま
すが病みもしないで神様に何事か一心に祈り
つゝ昇天されたとゆう父の死はせめてものな
ぐさめです。きっと私達の幸せを祈りつゝゆ
かれたと思ふと、やくざとゆうより読み書
き[illegible]なかったが[illegible]人への[illegible]にも
思いがする父の情だけに純ではあれで胸が一
杯になります。そして源実朝の
ものいはぬ四方のけだものすらだにも
あはれなるかな親の子を思ふ
とゆう歌が胸に浮ぶ、何時の日にか日本に帰
ることがあったらこの歌を石碑にきざんで父

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

のお墓に建て、おげたいと思っています。

貫朝忌秋なぐさめる歌のあり

の歌はこの歌です。

最後に私はかうした不幸な運命の下に生まれたのが自分であってよかったと感謝し心から人々の幸福を願って神につかえる者です。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

FOLDER 7-1

(4)

TAYE

HARRY MIYAMOTO
335 DUNDAS STREET EAST
TORONTO 2, ONT.

TORONTO ONTARIO OCT 15 1:30 PM 1958 CANADA

ROYAL

5c 5c

NATIONAL JCCA'S
JAPANESE CANADIAN HISTORY
CONTEST
415 Spadina Ave
Toronto 2-B. Ont.

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

(6)

Make 3 copies

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

Jolanda
P.O. Box 1031
Brantford, Ont.

the title as

My father-in-law

Copies

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

コンテスト No 380 第一校にて

(一)

一九百十四年欧洲に大戦突発白人種は軍隊に徴用され戦地に出征する当時日系帰化人は選挙権なく故に軍隊に徴用されず一九百十五年晩香坡に於て加奈陀日本人会は此非常時に当り日系帰化人も加奈陀国民として最高の義務を果す可帰化人をして義勇軍創立の本部をオタワ政府に提出され政府許可された事を十二月新聞に発表され翌年正月義勇兵募集をされる事に成た四月頃には百五十名位義勇兵が集る時カナン大尉閣下にホール曹長教官として訓練を受る晩香坡スタブストレ谷寺を行軍する実に愉快であつた時六月に至る突然政府は日系義勇軍は一ケ連隊を創立出征後に其補充兵を戦地に送り得る軍隊を徴用すと要更され此事に依り日本人会は一ケ連隊創立不可能とし残念ケ義勇軍を解散と成たが数回負けしケイナ方面の漁者に行又アルバタ州に日系人を軍隊に徴用するとき久く僕アルバタ州に行事を

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

沢山した六月中旬にキヤルガリ市に暑街道に年人募集所がある白人兵がある日本人かときくエスコ君何度から来た晩香坡かうきた君こちらにこいと言ふ軍人募集所に行しいかめし曹長が笑ふて居る君は帰化人かときくエス帰化人は軍人に取ると命令的に言ふ実は僕は嬉しかつた入隊の紙にサインをした君ハンガリときくエス兵士が近きのレストランドに連れて行たレツウを食た満腹に成た兵と共にキヤルガリ市外のサレキヤンプに行く見渡すかぎりテントの波の様だテントの中に大き街道がある二町位行と大きテントがある部隊の事務所うしは官に面会した君は晩香坡の白人兵軍曹兵かときくエスイ軍医が身体を見るオライ。だ愈く採用に成た軍服所に行く一切の物を受ける実に嬉しが心載はすぐとるテントに行ルいテントに白人兵と六人入る翌朝六時に起れつラパ外に出る侵長が来て君こちらにこいと言ふ大きテントに行君はこいで士官たちのウエタを するつだと言ふて

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

出て行くコオクがきて君は良い隊に来た兵隊はシケコウ隊だ教練も受けず戦地にも行かず食堂をきめこんでいるすれば良い食堂を出ると一所だごうそう食ふ君位の大失敗だ昨日の喜びは一夜にして雅言ふ奉天テントに入る白人兵たちがすい君はチャンスだなと言ふ高野部と言い合いがだまって居るすい君の病気のときくと上又其から四日目に近藤繁君が突然にきた驚た何ふしたと早川様から話を聞てきたと言ふすい君この隊は隼隊だ近藤君も驚く仕方ない何ふしたろうと言ふ其から三日立日曜だ近藤が外出する交代に出る事にしたら後ヨ時まで帰隊する事に成て居るがヨ時に帰隊がない一時二時も去る何ふした事か心配だ翌朝たら士官がきて近藤は帰隊せない何ふしたろと心配して言僕も知らない一点張りコオクも心配する士官たちは食堂で何やら言ふて居る其の内三日主手紙がきた近藤からでありる心配をのけてすまない僕はメデンハット十三部隊に居る

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

[illegible]

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

であろう日本人義勇兵が晩香坡に着るのと
とき人エスと応ハた翌朝から教練を受
ける別に考こつく事もない其のうハ日
立早川一郎様から部隊に電話がきたと
副官が言晩香坡から日系兵が二人早川
の名にきて居る行て連れてこいと言ふ
キャルかりに行ケば其造と宮原助太郎二
人が居る君たち入隊するかときけばわ
かつて居ると云ふ今度は僕が二週間つ
古参兵だ君たち勝がへって居るかとき
くと今早川様にお願れたと云ふ三人が
キャンプに行く隊デントは自人共六名皆が
仲良して居る其から一週間後に僕はアルバタ
河主の日系人募兵係りに成た五名が入
隊す又今度はウン中尉と僕は晩香坡に
募兵に行事になつた晩香坡スラブストン
てせ一名集る皆が軍服を着て晩香坡を
出立と云いと望み部隊に電報を打ち軍
服を取寄る事にした僕と中尉はレキナ
市面に行きせ三名集る夫分は中尉と共
にルバトより千ドモントンを回りキャンプに

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

向ふ僕は晩香坡に出て来、一名と共に行
人事になり等級が屆く皆の身に合せる
のの大仕事でもつたと云ふ意晩香坡を
出発する日人たちは驚て見る見送人も
多かつた鈴木市太郎もオヤンブまで乗た
日系五十二名第四中隊第十四小隊となた
ゾシン中尉小隊長ブレーア軍曹が教官だ毎
日練習は激しく日系は身体は小さいが規
律正しく立派な兵隊であると部隊長他
つ士官たちが誉めて居る九月二日愈々
百七十五部隊は出征命令が降る僕と四
宮両人に二本筋祖母迄君一筋を書へうる
し日中自にハレファスク港を出る大西洋は
敵の潜水艦が出るので英国海軍に護送
されて英国に安着した英国では練習は
続ゲて一九一七年を迎へた二月射地に
成る百七十五部隊は練隊となる日系小
隊は一線に立る五十部隊に補充された五
十部隊はサトデラへと云ふ部落に本部
をつる日系は十四小隊に編入と成た倉
ヒミレデ一線に入るビミは小高い山で

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

ある敵は山の絶頂に在る我が軍を目下に見る司令部は苦戰を覺悟して居た人戰線には二週間交代に成て居る戰爭にも一つの樂みがある二週間で後方に帰る時に樂しみだ後二週間は生て居れる後方では温い物が食へるカフヒも飲るビヤも買る手紙も来て居る実に嬉し交代に成る日系人も死傷者が出る僕は何だか責任を感ずる運命は天が知る事と諦める外ない戰いの為前進する二ヶ月後に敵前五十メイ位に接近愈々總攻撃に移る右翼に七七部隊左翼に四六部隊五日の午前二時に砲兵の砲撃が始る三時に歩兵が突撃を成た砲兵敵の後方打て居る敵退却我が軍前進五六哩失敗に一線をもず人敵の砲撃激しビミ總攻撃部隊は三日三晩一睡りもせずに居る事丈が体に実につらい部隊は半数に成て居る日系人も死傷者多い我が隊後方に出る二週間後に前線に入る撃戰は續く所も部落も平野同然だ失迫は敵の追撃急に

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

して俘虜は市民を置て後退した敵とき く
迄る度に丁の頭の毛がある七十歳位の老婆
があなかうまくてきた食物は敵がくれたいふ
味方軍がきたので嬉しかつて居る暫つ
新兵が補充され乗る当時日露兵は廿名位
に成て居たアルバタ洲百れイ二部隊の日露兵が
十八名補充に乗た実に陳かしセキハンであた
兵で日露兵四十名の小隊に成た所に八月夏の
盛りはるか前方に市が見へるレンズと言ふ
市街戦に成て英国兵が苦戦して居ると言ふ
我が隊が交代に成る時と日露兵を二分と
し龍岡分隊と僕と二分隊にした午前三時
半発四時一線に入る敵の砲撃を受命中実
に百パセント龍岡と連落が切れた龍岡分
隊は前進過ぎて後退の時龍岡共に五名
戦死六名負傷者が出た僕の方は職材名
重傷一名である敵の砲撃中ムザンゴウー
日ウヅまり死体を一方側に積上げる日露一所に
まとまる其後敵の砲撃激し僕負傷に成る
後戦友と別れの言葉も出ず実に寂し
後退であつた英国病院に送れた其病院に

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

二ケ月退院ブランサットと言キャンプに移るケれ
百十八年を迎へた三月加奈陀帰還と共入
と成た嬉やう船しやう一線に立る戦友の
事を思い出すと七月英国を出港した八西洋
は敵潜水艦の為め大きく回ると言ふモントリオル
に着た時は八月でありカナダに着た時も
矢張り戦線の事は忘れず従軍はキャルガリ
に着た三年前に軍隊に成た頃しかつた事
失敗した事も夢の様にある九月に医師の
検査を受る負傷の後は全快して居る加奈陀
はレベリアに出兵して居るキャルガリでもレベ
リアに行く部隊が居る騎兵である検査の時
医者がおいユーレベリアに行けり日本軍と一
度に戦ふのだと云ふ僕はレベリア行きは騎
兵なら医者がヤーと言ふ己の尻を見て
居ると僕は尻をたいた医者が己の尻を見た
オーと云ふてノーグッドと僕の尻をたゝく実に
非ない(ず)痔である僕はずつと加奈陀に帰
されたのである レベリア行はのがれた毎日遊
である戦友白井君飯塚君が帰還して来
西人共に無事に帰還して嬉しかつた毎日

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

所に送る十一月十一日休戦に成た帰還兵同士
手を取合て喜し涙ぐむ戦争他の戦友の事を
思出す所に送た男女達ちがセキハンする光た姿
様が立てセキハンする十三日に成る元気な兵たち
はどしく復員になる濃は(ゲ)の手術を受ける
翌年二月廿一日復員に成た還去三ケ年の思い出
は夢の様にある一年後故郷を訪ねる再び航
後千代が丘に留まる人種偏見は少しも変
らない領土の選挙権はあるが七ケ年後晩香
坡に送る日系帰還兵は白人帰還兵に加
奏陀大戦古兵懇会日本人支部(NOG)と成た
然しBC州には人種偏見はあつた日系帰還
兵は領の選挙権を戦争後四ケ年目に保る
事が出来た。BC州の選挙権は(九三五)年春
三月会長僕が幹詩の時大々的運動の決果
議会で最後の一表の差で勝つ帰還兵だけは
白人同等権利を得た帰還兵は帰化人と
して最高の働務を果し日加新書の為に盡
た積りである晩香坡の公園に立てられた勇
兵記念塔は加奏陀在留一般日本人の寄金で
立て頂たのである貴に感謝の至りである

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

(十)

永遠に加賀善右衛門になる事と思ふ
故郷日本から一流の名士が加奈陀に移航
された時役の記念塔に参拝され花環を
供へて下さる事を見る又蘭たりの時は実に
嬉しく今後加奈陀日系達ちが役の記念塔
が常に婦人等に一番十月十日十一時の記念
日花環を供へ下さる事を願ふて居る

一千九百五十八年九月廿日

加賀市恢御中

帰還兵 宮崎市 七十三歳

Kamoemon Kubota
310 Kennedy Ave
Toronto 9 Ont

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

(7)

S. KUBOTA
310 KENNEDY AVE
TORONTO, ONT.

TORONTO ONTARIO
SEP 20
3:30 PM
1956
CANADA

6¢ CANADA

NATIONAL J.C.C.A.'s
JAPANESE CANADIAN HISTORY CONTEST,
415 SPADINA AVE,
TORONTO 2-B, ONTARIO

Mrs. Lang / Mrquecki
396 Sunnyside
Toronto

[age 68]

(8)

3 + others
T. Miquecki
396 Sunnyside
Toronto
Age 68
non smoker

[Make 3 copies]

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

①-①

カナダ日本人史、投稿

「第一歩」

宮内高治

サンフランシスコから乗船した、当時ゴール船のデッキから、刻一刻近寄る、カナダの雄大な天地をじっと見つめていた。朝もやが晴れ渡ると、ノースパンクーバーの山、クラウスマウンテンが、高くそびえていた。

源泉場では、宿屋組合の人達の出むかえをうけ、希望の第一歩を踏みました。独立場から、C.P.R.の広い線路が、どこまでもつづいていた。

「男児志を立て、郷関を出ずし」

この新しい国の、広い天地で、思切り働こうと、体の底から、新しい力が、ぐっと湧いてきた。時、当に、一九〇七年、四月二十五日の朝、(明治四十年)例の、クメリック号より四ケ月早い日のことだった。

一たん落着いた下宿屋、エビス屋の、居心地に別れをつげ、早速ねぼけのカンウラクトの、ウエストミンスター南方の鉄道敷設工事に働き始めた。パウダーかけの危険な仕事も少しも意に介せず、若さは分論のこと、新しい人生を切り開く決意も手伝って、大人以上に働いた。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

カナダ上陸に来、始めてのペイに、胸を、おどらせて開けてみると、一日、一弗二十五仙の計算で他の人達より五十仙も少い。それでも、朝七時から、夕方六時までの十時間の二月間を、夢中に働いた。

其時、ストンプ面の鮭取りの網マンの当時、船は二人乗りで、漁具を持った人の達が、パートナーを求めていたので、駆け付け工事では給料も一人前にもらえず、面白く感かった時でもあり、渡りに船とばかり移った。

所が、出漁までの一週間、鮭を取る事が、酒を呑びる様にのみ、その後はおきまりの、ポキ、等、賭博の用意なので、私と友人の孫川さんと二人で、迷惑していた。

所よく近くの農家より、二、三日でよいから、二弗五十仙デーで、野菜の草取りの手伝を求めていたので、毎日、十時間ゆくことにした。始めて白人の所で働くわけで、少し緊張する。孫川さんが、「渡米の栄」という本を読んだが、白人は腰を下して仕事をするのを、

非常にいやがるというので、三日間位かかんだ末、草取りをついた。四日目の朝、主人が来て、始めから腰を下して草取りを始めたので、二人は急に尻餅をついて、顔を見合せ、世話、もうわしで、腰が折れる所だったと笑い合った。

日本の百姓とちがってこの国の百姓は、大きな仕事は、馬と機械でするから、有望の将来、資金をため、農家に入って、経験をつんだ後、自作することを、望りさんと固く誓い合ったのも、つい昨日の様な気がする。さて鮭取りが始まったが、折悪しくも不漁の年、それに経験もなかったせいか、二ヶ月かかって、やっと六百尾、ネッマンの酒代をとくと、バーナーの礼に支払う金は安く、路付け工事より、また悪い。ナーテー働きになってしまった。しかし、別な意味で大きな牧獲をあげたと思う。というのは、当時の鮭取りの人達は、今と違って、大仰な所作り あかりで、心をなくさめる家族とてなく、気

は荒く、土曜日の朝六時、おゝトが帰ってくると、始めはすきし一週間の出来事、一段と強かったの、スネキに網かいっていたとか、罪のない話したか、網の手入れ、一をつすむと、おきまりの パクチが、酒を飲みたがる始めるル。雲行きがあやしくなって、其中がチャンと色々ごちそうを並べてある。高いテーブルかけくり返さル。後は講談を二人で隅の方に。牛の大立廻、談りさんと二人でわさくちって見ていた。

私はそルを、じっと見つめていたが、これは人事ではない、と慶吉島のことが思出さルた。酒飲みの父のため何かと苦労し、又祖母が、毎晩の様に、少しは楽になるようと。飲ませてくルたのに、酒もきらいではなく、又友達と一緒に飲みに行くこともあったが、こルはいけない、新しい国に来て、目的を実現するために、身をあやまってはなら ぬと、パクチのために、一つの決心をした。今日限り、しみじみ思い酒も煙草も止め、パクチは自分の

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

こと絶対に手をつけまいと誓った。それに来五十年、ヒーパーとしたことは、あの時の感謝の大きさを故郷だったと思う。

さて三ヶ月十一テン働きで過した或日のこと、鉄道に働く能京のんから、一哩先の農家で、おーイを捜していることを聞き、早速計画の第一歩をすゝめることが出来ると、大喜びで連れて行ってもらった。

その農家の主人は

「お前たちは、今急くから、月世五弗出すが、このおーイは、体も小さいし、言葉も分らず仕事とて経験はないのだから、月十弗しか払えない。しかし来月は十二弗、其次は十五弗それから先は毎月五弗ずつ上げ、夏までには世五弗にする」

とのことだった。

能京の人は、鉄道でも、月世五弗(一日一弗半)は驚くから、いくらなんでも、月十弗では働かんだろうとは私たちは、私は考えた。

計画した目的達の第一歩を進めるためには、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

金銭よりも、経験の方をとるべきではなかろうか。経験が千弗、英会話の練習が千弗、給金が千弗、計世弗のつもりで、即座に喜んで働くことに返事した。

始めは一日中、いろいろな仕事ではない。それで、するだけのことを、急いですませると、何かなくてもよいのに、外の仕事を手伝いに行った。朝も、私の仕事である。ストーブに火をたきつけ、テーブルをもつとすると、急いでバーに行き、主人がミルクをしぼる所を、じっと見ていた。

二日目の朝、主人が、"しぼってみたらかと聞くので、"イエス"と答えると、一番おとなしい牛をしぼってみよと教えてくれるが、牛もミルクは出そうにもない。牛も下手にさわられ、時々痛いうしく動くので、益々出なくなる。それでも、三、三日続けていると、大分出る様になり、主人が四五回しぼる時、三回位しぼる様になった。そして、乳しぼりは、私一人の仕事となった。午前と午后は、ケツチンの片付

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

外に出て、ヒンツー四人が毎日
来て、スタンプ押りのクリカランチに来ており
たので、自分から進んで手伝に行き、他望に
負けないで働いた。望みのある身なので、一日
も進んで事をし、秋十一月始まで、弱と、一日
農業の仕事も忘れ、ペイも、三月目には、
世五弗に上げてくれ、英語も、日常会話は
来る様になった。十月頃、仕事が多くなって来
ら、ちょっと、モキションに働いた時など、通
訳のようなこともして、ホーマとから非常に
重宝がられた時に、僅か十弗で働いたが、た
しかに世弗の値打があったと愉快に思った。
さて、染川さんは、ビクトリアの方の百姓屋
に働いていたが、秋仕事が終ると、又クロバデール
の方に来られた。少し余裕にも送金したが、
残りが二人で、百七、八十弗あったので、自作
農を始めようかと、急々方たってみたが、いくら
場の安い当時でも、二百弗足らずでは到底お
まそうにもない。所が或る人が、クロバデール
のおネウルストアの ミスタ パー(PARR)が、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

クリハトの代りに、三年無賃で貸すことを聞いて早速、故高橋金次氏を頼み、交渉した結果、始め三年間、開墾の代りに無賃、四年目から年十表エーカー、食料と種物も有る時借りで貸すとのこと、二人は喜び立つ思い、丁度手頃な家もあったので、独立一歩を踏み出した。一九〇八年の冬も押しつまった頃のことである。幸い、近くに仕事もあったので、資本かせぎに働き下う、開墾には、春には、三ヶエーカー所を、ポテト五、アニオン一エーカー其他野菜等をつくった。

幸いちかいので、近所の百人の家に二人かへんぷに行き、向うからは、毎二回つれて、人一人が手傳に来てくれた。

働きたいうも私は、百人の農家で植付けの時期は勿論、エーカーに対する種子の量、取入れの時期、天候の様子などを、くことにした。染りエンは、毎夜当日日記に書くことにした。

そんなにテーブルに向って書くのは、長続きしないよ、君も、一日とうらたいが二日とは続くまいりとうはれたが、三ヶ月たっても、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

止めないので、訪ありさんもつくりしてい
もう止めはせんよりといわれたが其後世話
も続けた。特に必要な箇條は赤インキで書い
たので、後にこの当用日記がとても役立った。
収穫は、始めての土地でもあり、余りよい
成績でなかったが、それでも、雪と寒、農具
の一部を買入れ、番小屋も作り、ケキンも、
四五十羽いるようになった。実に翌年は、ケキン
もふやし、ミルク牛も数匹買入れ、バターと
卵で、ストアの支拂いも殆どすませる様にな
った。

駄人の人達は、あの二人が成功しなか
ったら、外にする人はないとまで云ってくれ
たが、この見方がきれいにはずれたことは球
念でありました。というのは、二年三年と続けて
ゆく内に、ずうし原であった土地も本当に、
きれいな畑となった。しかし、こんなにきれい
になっても人のものである。どうしても、自分
達の土地を買わねばとしみじみと思った。
しかし当時、エーカー三百弗もしていたので、
とても、手も出ない。
すると、其頃、此方、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

フォートジョージ方面に政府から一人に対し、百ミナエーカーの土地を、エーカー一弗の割で、プレンプションをもうえることを開つた。それには、市民権をとらねばならぬので、帰化申請を、新西院の諮延に出願した。一九一三年に許可となつたので、倉庫、四畳間の、クロバテールの生活を切り上げ、こゝを百哩北方の、フォートジョージに移ることに定めて準備をはじめた。

馬は手鋤のかゝる。それに農具から、食料、馬の飼料まで積込み、二頭引車に、雨が降つても、ぬかるみ道にケンバスをかけた。私達も、からゝ小屋よろしく、自主独立の、新しき未来を開拓する旅路えと、馬のすゝめの音も高く、進んで行つたる

こゝ上。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

カナダ日本人史投稿

①②中

「キャリブード」

宮内鳥治

一九〇七年、四月廿五日、十七才で、バンクーバーに上陸しました。直ちに、鉄道路付け工事、魚取りのパートナー等をした後、農家から、月十弗と最初からしても、経験が十弗、英会話十弗、給料十弗、計廿弗のつもりで、よろこんで、自ら進んで働き、カナダ農業の基本を体験し、上陸した来の友人、染川さんと、二人合資の、百七、八十弗の資本をもとでに、クロバデールに土地、十二エーカーを開拓したが、自分達の土地を持ちたいとの強い希望のもとに、忙しもフォートナッシュ方面に、政府から、一人に百六十エーカーを、プレンプションを、もうえることを聞いたので、一九一二年に、市民権もとり、四年間住みなれたクロバデールを後にした。四月二十七日のことだった。

二人は、手飼の馬に、農具から、食料、馬の飼料まで積込み、二頭引車に、雨が降っても、及ばない様にケンバスをかけ、からボーイのスピードで、日照地、フォートナッシュへと、まっすぐの音も高く進んだ。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

道はドライ地帯なので、行けども行けども氷のない所で、又有ったとも、アルカリ分が強く、コイかも素ちゃい水が多かった。それで、水がちゃんと出時道まつには、テントを張り、一泊することにきめた。クロパテールを発ってから、三日目の十時頃、チリワイの地方を、道はよく、天気もよく、二人は鼻歌まじりに馬を進めていると、後から、二頭仕立ての馬車が、飛ぶ様に走って来て、和達の横にピタリと車をとめ、コートの内側の移民官のバッチを見せた。

同地は、米国境より、遠くない所なので、面白い恰好のコンコンが通ったので、急に道路して来たものらしい。

"お前達はどこから、どこへ行くのか"

"クロパテールから、フォートヨーシに百姓しに行く"

と答えると、クロパテールにいた証拠があるか

と聞くので、帰化証、其他の書類は、荷物の中

にしまいこんでいるが、ポケットにあった、三、

四日前の、パーチのストアの買物のビルを示

すと、疑いは晴れた。そして、その恰好では、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

フナトカヨーロッパまでのツライウは無理だ。丁度昨年の今頃、二組の白人が、二つのワゴンで行ったが、アシウラントを越さねばならぬが、今は雪解け道で、道は穴だらけ、但ははれたまりだ。其後で人達は二組だから、道の悪い所は、四頭の馬で引上げたが、あい前達は、それが来ない。それ(ぞれ)が、白人達は、二ヶ月あって、ようやく来ったを越えることが来たらしい。それより、そこから、田哩の、ローズデールから、南の方に、フレーカー河に渡船があるから、それで、アがシスに来て、フレーワカーを借りて、アシクラフトまでCPRで行け、その方が、金はかゝるが、結局安上りになり、早く着けると親切に教えてくれ、幸運と成功を祈ると、モキハンして、別れた。向う見ずの私達でも、馬でホップを越えることは止めて、汽車で、アシクラフトまで行った。それでも、坂道が多いから、車にブリッキそっけなければ危いというので、有名なポテトの産地、アシクラフトで、かい屋にとりつけ

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

てもらった。又軽いクリクストーン、飼料等を買い、一頭の後、昔、キャリフォーニに金山が発見され、五百哩の道を、アキス、ソー、シャフル で開通したという。有名なキャリフォードを通人だ。当時としては、立派な田舎道ではなかったが、坂道が多いので、雪が降れるので、人の方が困った。ポテトの産地というのに、動力でドライヤ帯で風の強いほこりの立つ所だった。クリントン近くで一頭した翌日、上り七哩の坂道を半日かゝって越したが、来る日も〈坂道で、雪もあえぎ〉下って上って行った。或るクレイの急坂では、雪の前足がすべり、そさをしたゝかぶつけたので、恐れて、ホルスト上、のぼろうとしない。下の平地まで、バイキして再び、のぼり始めても、その繰った所に来ると、止まってしまう。仕方なしのので、荷物を全部下して、かつぎ上げ、道の一方の立木を切り開らて、よろめく車を引揚げたこともあった。

今のプリンスジョージには、汽車の便なく、

この辺りから北方をつなぐ一本道で、私達の側を、大勢の輸送隊が通って行った。それは、大きい幕舎ハウスの屋根で、大形のワゴン車、荷物を満載し、馬八頭から十六頭を、一人で引かせ、坂道になると、自動車で、ワゴン一、二台づゝはなして、坂道を引上げる、夜は、各処に有る、ロードキャンプに泊っていた。私達は、ロードキャンプであり、水の有る所に、テントを張り、愛犬プリンスに外をワッチさせ、鍋を枕元に置いてねるのは、別につらいとは思はなかったが、二頭の旅に馴れない馬で、坂道になると、荷物を二分、三分に分けては引上げるので、馬の病弱は一通りでない。せめて一日でも休ませてやりたいが、飼料が予定以上に、へってくるので、それも出来ず、馬に代って、車を引きたくさえ思った。短い急坂では、荷物を全部下し、空ワゴンを馬に引揚げさせ、自分達は、荷物を、かつぎ上げることも、無日くり返した。たゞ、車に乗るのは下り坂だけのことで、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

ちとは、車のサイドを二人で歩き続けた。
或る、雨上りの日、水たまりの手前で、車の、
ぶりつ手の上に飛びのったとたん、すべり落ち、
片足の足首の所を車が回り、通り越してから
止まった。梁川さんは、日露戦争に、軍医の
補佐をした人で、訓練された手つきで、足首を調
べ、骨に異状はないらしいが、少々はれるとの
こと、二、三日ワンから降りなかったが、再び
可哀想でなりなかった。道中、小川のある所
に、インドアンが、テントを張り、冬の食料に、

魚取りをし、スモウをしていた。彼等が、塩、
砂糖、茶と魚を換えてくれとせがんだ。要りん
達ではなりうしいが、気持ちはあまりよくない。
よりも水の流れている所で、インドアンが頭に
とりりれと、馬車に積んである荷物、馬を
と欲しさに、こちらが殺されでもしたら、
ち所で、旅路の終りかと思って、馬にも水を
のませ、宿舎にも水を入れて、四五哩も先の
方に、テントを張ったものゝ、安心して眠れな

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

い夜も度々あったことも、今では笑話になってしまった。夜明けは寒く、五月十日前ったが、くんであるる氷に、氷が一寸位はりちょっと割れない位、菁草一本としなかった。ソーダクリークから先は案外道もよく、今までの、谷と岡、石原のヅウイベルトで作物が何もまきない所と異り、地質もよいので、所々に、ようシケがあり、牛馬が沢山いる所もあった。一日、三十二哩行けたのもこの地方であった。この様にして食べ、クイスネルに到着した。こゝは、きれいな川が流れていた。ちょっとした町で、フォートシュミットに行くのは、北の方で、こゝから道が悪い。丁度、雪とげ直後、高地はまだ、雪どけ最中、春になってから、一台の車も通った跡がない。草も、馬も、二尺もの泥沼にスタックして車から、馬だけはなし、長いチェンで遠方から引上げることも、日に二、三度はあった。それで、一日僅か六哩行った日があり、今では、二、三時間で走れる、百哩足らずの道を十日も

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

かった。川の水の黒いブラックワーターリバーもすごい。クロバテルを発ってから、二十二日目の五月中旬のある晴れた日に、フォートショージにたどり着いた。以前より交通していた試日氏つ能(ホ)人、後年日本に帰り、ホテルのマネジャーをして居ると聞く)に出むかえてもらい、一安心した。四五人の日本人が、小間物店や、理髪店等をしていた。グランド・トランク鉄道会社(今のC.N.R.)が、三千人位の人を使い、道路工事中で、其人達が、商店、酒場町等に落す金で、景気がよく、物價も驚く程高かった。たとえば、塩も、ソーダ、クリーク まで輸送隊が運び、そこから川船まで運ぶので、一斤七仙のつしーつ代が又、冬、川が凍ると、全部スレイで運ぶので、一斤三仙の塩が十五仙にもなる。ポテトでも、アシクラフトからも、百四、五十哩も運搬するので、七百七十哩もしたる。

サウスフォートショージのストアの土地で、前年、五六エーカー開墾した土地で、ハウス

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

も馬小屋もあり、ポテトの種子も地主持ちで、半セヤーで作る事とし、帝から十五哩西方に暖を落さつける事にした。ポテトの植付けもすませ、其春開墾した土地には、飼料の麥を植付け、八月に、武田氏と三人で、窪田人を頼み、土地を見て廻り、割によいと思う所を、四ロ、百六十エーカーが一ロの、プレンプシヨン、エーカー一弗で、B、C、政府の許すする政府の土地を、案内人の手を経て、許す申請し た。今日か、明日かと返事を待ち乍う、二ヶ月

経っても、何の通知もない。普通、一ヶ月で、許可になるのに、おかしいと、州政府に問合した所、帰化証はあるけれども、各前で、日本人と分り、好ましからぬから許可せずとの、冷い一片の手紙を手にした時は、失望と、口惜しさと、すべて打入りました。二人で夜もねむれなかった。クロバデールに四年間の事業もこの土地を得んがために、こゝまで来て、排日のために、こゝまで来たのはずかしめを受けようとは、夢にも思わなかった。腹を立てゝ、はい

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

りも居れないので、山東州に行って、ホーレンスラッドをもううことに、二人は決めた。

春植付けたポテトは、かなりよく生来、秋には鉄道工事キャンプより、烟渡し、せル十帯で買いに来たが、地主に相談すると、冬になれば、せ三百帯になるから、自分は売うちりとのことだった。でも、TPの鉄道が、クリスマスまでには、フォートジョージまでくるからと云うと、汽車が来ても、会社自身の物を運ぶのに一杯だから、一般の貨物は三月頃になろうという

ので、私達も売らちなかったが、予想ははずれ、コンクリートの上に敷設した粗末な丸結の鉄路に、スチーム、カーで、正月には、エドモントンより何でも来る様になった。それで、ポテトも、要路を十五哩も運び、せ世帯もしちくなった。

おまけに、五月来た時、市内の肉屋が配達に使うから、雪を五百帯で売れとせがまれたのを、売るにしのびずにいた伊雪が、春の長旅の疲れが出て急死したり、寒さが、強更、身と心にしみた、フォートジョージの冬の幾日も、今では、なつかしい想い出の一節となった。

北上。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

カナダ日本人史 投稿

③

下「道なき道を」 宮内爲治

一、一九〇七年、四月廿五日の朝、十七才で、バンクーバーに上陸以来、直ちに、鉄道路付工事、鮭取りのパートをした後、農家に月十弗の給料と云はれても、経験が十弗、英会話の練習が十弗、給料十弗、計卅弗のつもりで、よろこんで、自ら進んで働き、カナダ農業の基本を体験した。そして、かねての計画通り、上陸以来の友人である染川さんと合資の、百七、八十弗の資本をもとでに、クロバデールに、土地、十二エーカーを切り開いた。

しかし、自分達の土地を持ちたいとの、強い希望を押さえられず、折よく、ウォートジョージ方面に、B.C.政府から、一人に百六十エーカーを、エーカー一弗で、プレンプションを、もらうことを聞いたので、一九一二年に市民権をとり、四年住みなれた、クロバデールを発った。二人は、手飼の馬に、農具から、食料、馬の飼料まで積込み、二頭引車に、カウボーイの格好で、二十二日もかかって、船、フレーザーにのり、急坂では、荷物を二人でかつぐ

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

等の旅の後、五月十九日、フォートジョージに移った。私達がまだ、クロバデールにいた頃、フォートジョージに一ロットと、そこから、三十哩位、東の方に、百六十エーカーの土地を、実地に見もせずに買い、すでに千弗余りも拂込んで居った。ところが、ロットの方は、三哩位、東の方に、鉄道会社が社業として、タウンサイトをつくり、ステーションを始め、ホテルも建てたので、そこが中心となって、プランスジョージ市となり、もントうにと、サラスフォートジョージの二市は、火が消えた様になってしまった。従って、私達のロットも、無價値のようになってしまった。

それで、百六十エーカーの農地を、染川さんと二人で見に行く事にした。しかし、鉄道が開通するまでは、川船が通っていたので、その土地から、二、三哩の所まで船で行けたが、週一回でも汽車が通るようになっておうは、船はなくなり、汽車で途中まで行き、先は、歩かねばならぬことになった。

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

一週間の食料と、モ布一枚、ライフルを持ってフォートジョージから、十八哩のライロードパーまで汽車で行き、私達の土地の真南まで、鉄路を歩いて行き、そこから北に直線コースをとることにした。道は勿論のこと、頼りになる地図とてないので、コンパスを道しるべに、ブッシュの中に分け入った。約三哩位行ったかと思うと、沼澤地に出くわした。右に一哩、左に一哩行っても同じこと、あちこちしている間に、とうとう夕方となり、前進はあきらめて、そこで野宿した。ところが、翌朝、早くから山には禁物の雨が降り始めた。そして、其日は、丁度一週一回の汽車が西に行くので、一先づフォートジョージに帰り、出なおすことにした。しかし、其頃、日本人たちは、帰化証をそえて出した理由で、プシュン下附の願も、不許すになってしまった。私達は、アルバタ州に移ることに定め、染りさんと、愛犬プリンスが先に出かけた。私はより仕事も、持っていたので、染りさんが、

NATIONAL J.C.C.A HISTORY CONTEST

良い所を見つけ次第行くことにし、私は一人で、まだ見ぬ、新達の土地えと引返した。前と同じ様に、ライロードーリハーまで汽車で行き、停車場からすぐ近の山中に入ってみた。幸い部落地はないが、岡、谷の連続で、見通しが少しもきかない。道とては、鹿か兎の通る道しかなく、インディアンさえもいない。熊も出そうにないので、ブッシュの中を、くつりぬける時、ライフルが邪魔になるので、銃をこつにして、背中のズックにくくりつけた。

五、六哩も行った所で、測量地に出たので、よろやく、自分の位置が分り一安心した。測量隊のあったラインを行くと、ハンターが建てたものか、ドアも、ウインドウもないが、ログを積み上げたシャクがあったので、一泊することにした。宿泊無料なのはよいが、B.C.州の北部山地のことであり、夜はとても冷えて、一枚の毛布ではとても寒く、体はつかれていても、山(かよて)の遠吠えが聞こえたりしてよくねむれない。

翌朝は、上天気でほっとする。

目的地はそこから、五哩位、真北より少し、東になる。そこは中、一、二哩位、測量してあるが、その中央にどうして、たどり着くか問題であった。そこから、二哩位行くと、フレーガー河の上流に出るが、どのあたりか分るすべもないので、方角は、コンパスに頼るしか外に方法がない。それで、測量地の角の杭の所で、コンパスを、マッポの上にのせて、目的地は、真北より、何度東かを定めた。又其夜再び、無人ホテルに帰るつもりで、重い食物や、毛布等を置った。そうして、目じるしの為に、木を十字に切り倒し、一町位進んで後を、ふりかえると、下木や、ブッシュで目標は少しも見えない。これは危いと、再び小屋に荷物をとりに帰って、コンパスをたえず見乍ら、一寸先も見えない、立木、ブッシュ、岡、谷の海を、既に、海士の指に、少しづつ、進んだ。

それでも、三時間半かかって、定めた地点より、1/4哩とは違わず、たどりついた時は、地獄のアイスの下を航行して、無事ゴールインした

側に着いた。ノーチラス号の艦長の様に嬉しかった。

測量のラインに沿って歩くと、角の杭で、現在地が分った。地質の悪い同地方には珍しく、肥えた土で、南向きのよい土地だった。小川が流れ、住地ではあるが、申分のない、ラッキー、しかし交通の便利が悪いことはお話しにならない。こゝに道が来るのは、十年十五年のことではなさそうなので、どうする事も出来なく、当時27円、千弗の金を、ブワシュの中に捨てたと同じだった。かっかりして下う、何時までもそこにいるわけにもいかず、重い足を引きずって、北の高い岡を上り、二、三哩先のフレーザー河の上流にきた。今はもう河船もないので、河に沿って、下へ〳〵と歩き始める其夜は、青空リハーサイドホテルに一泊した。

翌日、歩きつづけても人っ子は勿論、鹿も山犬も見えない。聞こえるのは、河の流れと、道なき道を行く、自分の足音一つ、黙々と歩きつづけた。

山に分け入ってから、三日目